

学力向上に向けた

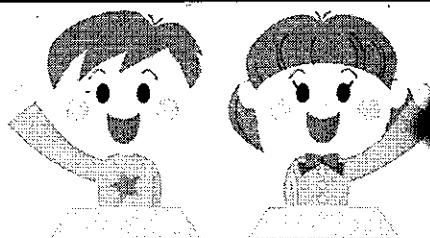
『5つの提言』実践事例集Ⅳ

～「学力向上に向けた『5つの提言』活用に向けてのポイント」各校の活用事例～

学力向上に向けた5つの提言

- 1 どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること。
- 2 子供をほめること、認めること
- 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。
- 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。
- 5 家庭学習の時間を確保すること。

全ての教室，全ての授業で
『5つの提言』の実践を！



平成30年2月

宮城県気仙沼教育事務所

【 目 次 】

- ◎ 『学力向上に関する緊急会議』からの提言(宮城県教育委員会) P 1
- ◎ 学力向上へ向けた『5つの提言』活用に向けてのポイント P 2~6
(平成27年度『5つの提言』 実践事例集Ⅱより)
- ◎ 各校の具体的な取組 P 7~40

【小学校】

気仙沼小学校	P 7	小原木小学校	P 19	鹿折中学校	P 29
九条小学校	P 8	津谷小学校	P 20	松岩中学校	P 30
鹿折小学校	P 9	小泉小学校	P 21	階上中学校	P 31
松岩小学校	P 10	大谷小学校	P 22	大島中学校	P 32
水梨小学校	P 11	志津川小学校	P 23	条南中学校	P 33
新城小学校	P 12	戸倉小学校	P 24	面瀬中学校	P 34
月立小学校	P 13	入谷小学校	P 25	新月中学校	P 35
階上小学校	P 14	伊里前小学校	P 26	唐桑中学校	P 36
大島小学校	P 15	名足小学校	P 27	津谷中学校	P 37
面瀬小学校	P 16			大谷中学校	P 38
唐桑小学校	P 17	【中学校】		志津川中学校	P 39
中井小学校	P 18	気仙沼中学校	P 28	歌津中学校	P 40

- ◎ 資料 「学力向上に向けた5つの提言 理解 継続 自校化」
「算数・数学ステップアップ5 事例集」

〔今年度までの取組〕

平成25年度 … 「5つの提言ヒント集」

※ 学校で「5つの提言」をどう活用していくか、各校から寄せられた方策を基に作成

平成26年度 … 「実践事例集」

※ 各校1~2事例ずつの取組を、事例集として編集・作成

平成27年度① … 「実践事例集Ⅱ」

※ 各校の「5つの提言」5項目全ての取組を、事例集として編集・作成

平成27年度② … 『5つの提言』活用に向けてのポイント」

※ さらに、実践例を基に研究主任と教科等指導員の協力をいただき、取組の視点として作成

平成28年度 … 「実践事例集Ⅲ」

※ 『5つの提言』活用に向けてのポイント」を視点として取り組んだ各校の事例を編集・作成

本年度も管内小・中学校の研究主任の先生方のご協力をいただき、「実践事例集Ⅳ」をまとめました。教師の授業力向上が児童生徒の「分かる・できる」場面を多くし、「確かな学力」に結びつくことは言うまでもありません。今後も「全ての教室、全ての授業で『5つの提言』の実践を！」を合い言葉に、各校の優れた実践を明日からの「授業づくり」、「学級づくり」に生かしていきましょう。

平成25年10月16日

『学力向上に関する緊急会議』からの提言

宮城県教育委員会

本県の学力の状況については、これまで改善傾向にあったものの、今回の学力調査では一転してほとんどの教科で全国値を下回る結果となりました。

そのため、県教育委員会では、学力向上を図るための緊急会議を平成25年10月2日に開催しました。

この緊急会議においては、本県児童生徒の状況や学力等について、精神科医、大学教授、地教委教育長、PTA代表、小中学校教員等で話し合い、今の子供たちに対しては、心のケアを行いつつ、分かる授業を行うことが重要であることを確認しました。

子供たちが安心して学校生活を送り、学習意欲や自信を持たせるためには、教師と子供、子供同士の好ましい人間関係を築くとともに、分かる・できる授業づくりを積み上げていくことが必要です。人間関係づくりや授業改善は一朝一夕にはできませんが、その足がかりとして、すぐに着手できることはあります。

各学校のすべての先生方に、明日からすぐに取り組んでいただきたい事項を「学力向上に向けた5つの提言」としてまとめましたので、実践化に努めるようお願いいたします。

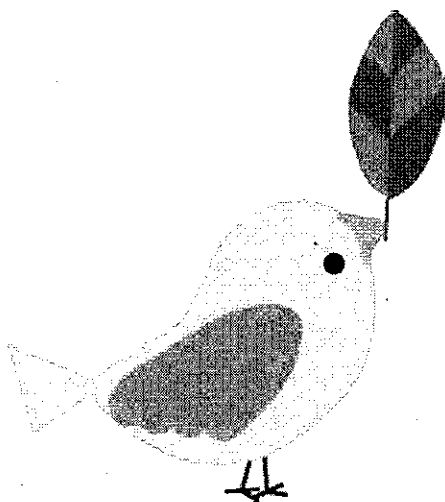
学力向上に向けた5つの提言

- 1** どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。
どの子供にも一日一回は声を掛け、子供の話をじっくり聞くことが、心のケアや人間関係づくりにつながります。
- 2** 子供をほめること、認めること。
子供は、ほめられると集中力が高まります。授業中にほめたり認めたりすることは、学習評価のひとつです。
- 3** 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。
本時のねらいをより具体的に設定し、1単位時間で育てる力を明確にします。授業の終末には、子供の学びを的確に把握し後の指導に生かすようにしましょう。
- 4** 自分の考えをノートにしっかり書かせること。
黒板を書き写すだけでなく、自分の考えをノートに書くように指導します。書くことは、思考力、表現力を育てます。ワークシートではなく、ノートづくりを徹底しましょう。
- 5** 家庭学習の時間を確保すること。
学校で学んだことを家庭で復習することは、知識や技能の定着につながります。予習は、授業での理解を早めます。何よりも保護者から、子供に声を掛けたり子供の努力を認めたりすることが、家庭学習への意欲づけになります。そのことを保護者に伝えましょう。また、各学校で作成している「家庭学習の手引き」の中に、家庭学習のメニューを具体的に記載するとともに、適度な量の宿題を課しながら家庭学習を習慣づけましょう。

学力向上に向けた 『5つの提言』活用ポイント

これは、「5つの提言」を土台とした授業力向上を図ることをねらいとし、平成27年度南三陸教育事務所管内研究主任研修会において、各校の実践例を基に、各提言のポイントをまとめたもので、「実践事例集Ⅱ」に掲載されているものです。

編集に当たっては、平成27年度南三陸教育事務所教科等指導員の協力をいただきました。

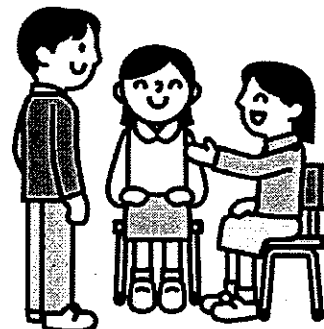


『5つの提言』活用に向けてのポイント

提言1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること

1 各種調査により児童生徒の実態を把握する

- ・学習、生活アンケート
- ・Q-U
- ・チェックリスト
- ・メンタルヘルスアンケート
- ・教師の日常観察
- 他



2 児童生徒と向き合う時間を設定し、一人一人を理解する

【こんな時に、こんな方法で】

- (1) 日常的に・・・子供からの発信を受け止める。
 - ・朝・帰りの会、休み時間、昼、そうじ、給食、部活動
 - ・日記、ノート等の書いたものから思いをとらえる。
 - ・授業（発言、ノート）から考えを知る。
 - ・課題や取組への点検・評価
- (2) 意図的に・・・教師側から子供への働きかけ
 - ・〇〇タイム（例：縦割りタイム）
 - ・教育相談
 - ・あいさつ運動

3 向き合った時間を生かす

- (1) 一人の子供を多数の目で見守る（気付く）。
 - ・教職員複数目の目で見守る
 - ・家庭との連携
 - ・地域との連携
- (2) 期待されるもの
 - ・人間関係、レポートづくり
 - ・学級満足度、安心感
 - ・雰囲気づくり
 - ・子供たちの自己理解のチャンス
 - ・問題の早期発見

4 情報を共有する

- (1) 職員会議・打合せ（主任者会・学年部会、等）
- (2) 生徒理解研修会、等
 - ・各種研修会の実施
- (3) 日常的な児童生徒の情報交換



「声掛けの目的は？」

- ・教師が子供のよさに気付く
→子供が自分のよさに気付く
- ・教師が子供を受け入れる姿勢を持つ
- ・子供が「見守られている」という安心感を持つ

【『5つの提言』活用に向けてのポイント】

提言2 子供をほめること、認めること

1 児童生徒の自己肯定感を高めるために、認め合う場を工夫する

(1) 授業の場面で

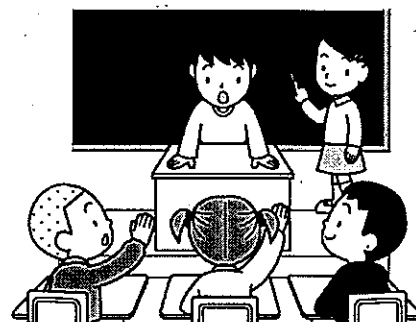
- ・児童生徒の実態把握に座席表を活用し、個々への励ましや評価につなげる。
- ・個々の優れた意見を意図的に指名し、全体の場でほめる。
- ・つぶやきや気付きを取り上げ、積極的に称賛し認める。
- ・誤答や稚拙な考えを大切にする。
- ・終末の段階で互いのよさを発表させたり記述させたりする。

(2) 生活場面で

- ・児童生徒間の認め合い（よさの伝え合い、学級・学年組織の中での活動や行事における役割の明確化）
- ・朝の会、帰りの会の活用
- ・互いのよさを認め合う校内放送・壁面掲示

2 児童生徒の学級づくり仲間づくり

- (1) 児童生徒が活躍できる場を設定し、そのプロセスを認め賞賛する。
- (2) 朝の会・帰りの会・集会活動・学級活動等の場面で、クラスメートの頑張りや活躍を紹介したり認め合ったりする。
- (3) SGE・ソーシャルスキルトレーニングを活用し、児童生徒が相互に関わり合い認め合う態度を育成する。



3 組織的な取組

- (1) 教師間の積極的な情報の共有を行う。
- (2) 互いのよさを認め合う、校内放送・壁面掲示をする。
- (3) 一人一人の児童生徒に対する賞賛の記録の蓄積をする。(全職員)

4 家庭との連携、発信

- (1) 懇談会等で児童生徒の頑張りを紹介し、家庭でも児童生徒を認め、励ます。
- (2) 児童生徒の活動成果を、学年だより、学級だより等で積極的に発信する。

【『5つの提言』活用に向けてのポイント】

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

※ 系統性を踏まえた教材研究を行う。

1 単位時間のねらいを明確にする

- (1) 児童生徒の実態を把握する。
 - ・レディネステストや意識調査をすることにより、児童生徒の学力や学習状況を細かく把握し、ねらいに到達するための手立てに生かす。
- (2) 見通しを持たせる。
 - ・単元の見通し→学習計画表を掲示する。
 - ・単位時間の見通し→1時間の流れをワークシートやホワイトボードで提示する。
 - ・課題解決の見通し→思考の流れに沿う発問を吟味する、授業の基本形を作成する。

2 児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

- (1) 驚きや発見のある問題提示の仕方の工夫
- (2) 学習のゴール（目的）と道のり（方法）の共有
- (3) 既習事項とのつながりを意識すること

3 ねらいと振り返りを直結させる学習過程の工夫

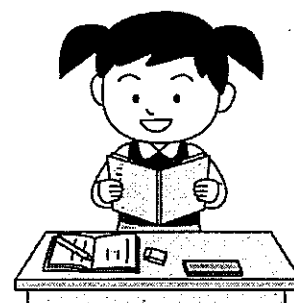
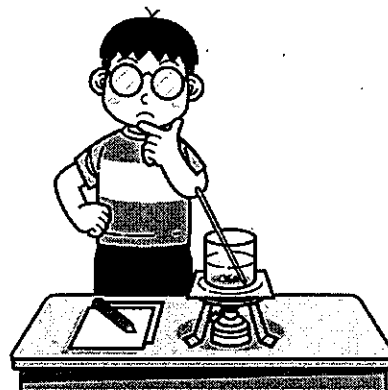
- (1) 教科毎の授業のスタンダードの確立と共有化
- (2) 単元構想と評価規準の明確化

4 適用問題に取り組ませる

- (1) 個に応じた適用問題に取り組ませる。
- (2) 理解度を確認するとともに、評価や補充・発展に生かす。

5 分かった・できたを実感させる振り返りの設定

- (1) 学習感想を書く際の観点を明示する。
 - ・ねらいに沿った観点を示す。
 - ・ポイント（キーワード）を提示する。
- (2) 発達段階に応じた書かせ方の工夫をする。
- (3) 学習感想を授業の評価や児童生徒の振り返り・意欲付けに生かす。

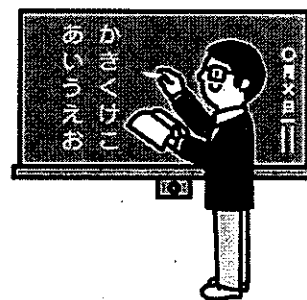


【『5つの提言』活用に向けてのポイント】

提言4 自分の考えをノートにしっかり書かせること

1. 自分の考えを持たせるために、書く活動を充実させる授業の工夫

- (1) 授業の中で書く時間を確保する。
 - ・指導過程を見直し、自分の考えをまとめる時間や振り返る時間を位置付ける。
- (2) 多様な表現活動を取り入れ、書く力を育てる。
 - ・既習事項の活用 ・文例を提示するなど児童生徒にヒントを与える。(モデルの提示)
- (3) 考えを深めるための授業づくり
 - ・段階を踏まえた書く活動 ・思考を促す発問の工夫
- (4) 考えを記述するための教具の工夫
 - ・発表用ボード、付箋紙等の活用 ・ICT機器の活用



2. 思考力や表現力を育むための指導の工夫

- (1) 書かせるための工夫
 - ・ヒントカードやキーワードを提示 ・メモをとらせる工夫
- (2) 記述内容をよりよくするための工夫
 - ・友達の考えを赤ペンで書き込む ・自分の考えの変容を見るための書き方指導
 - ・根拠を明確にして自分の言葉で書かせるための指導 ・考えを記述することの習慣化
- (3) ねらいに合わせた学習形態を取り入れる。
 - ・小集団による学び合い、練り合いの時間を確保し、多様な考えに触れるようにする。
- (4) 自分の考えと他の考えを比較する場面を設定する。
 - ・付箋紙や色ペン、メモを活用しながら学びを深めることができるようにする。

3. 授業における板書・ノートづくり

- (1) 板書の工夫
 - ・学習の振り返りができるようなノートづくりをさせる。
 - ・板書の構造化(ノートを意識した板書、学校全体で統一した板書のパターン)
- (2) ノート指導の工夫
 - ・学年はじめ又は学校で統一したノートづくりのルールを確認する。(色ペンの活用等)
 - ・授業の流れが分かるノートの書き方の指導 ・板書と同じ速さでノートを書かせる。

4. 系統的かつ横断的に指導するための環境を整える

- (1) 学年ごとに付けたい力を明確にし、書くことに関する重点項目を設定する。
- (2) 書く力を他教科、他領域で活用できる場面を設定する。



【『5つの提言』活用に向けてのポイント】

提言5 家庭学習の時間を確保すること

1 学校・児童生徒の実態に応じた、家庭学習の内容の質の向上

- (1) 「家庭学習の手引き」を作成する。
 - ・学習習慣の定着を図る（例⇒小学校：学年×10分，中学校：学年×1時間，等）
 - ・環境について（ながら勉強はしない，決まった時間の集中，等）
 - ・家庭学習のねらいや効果について
 - ・定着のための復習の仕方
 - ・授業に結びつく予習の仕方
 - ・学年ごとの学習例について（自学ノートの展示，等）
 - ・平日と休日の取組の違い，等
- (2) 教科の特性や習熟度に応じた学習内容での取組
 - ・教科の特性や習熟度別に効果的な学習方法を提示したり，課題を提示したりする。
 - ・自己評価によって，プリント等を選択させる。
- (3) 家庭学習を振り返る場の設定
 - ・友達間での評価（自学ノートを見せ合う，等）
 - ・教師側からの助言（コメントの活用）



2 家庭学習カードを活用する

- (1) カードの内容の工夫
 - ・めあて，計画，実施，振り返りを記入できるようにする。
 - ・学習時間，生活リズムを記入できるようにする。
- (2) 意欲を持続させる工夫
 - ・計画を立てる時間を確保する。
 - ・週ごと，月ごとなど，適時，取組の様子を把握する。
 - ・保護者から励ましの言葉をもらう。
 - ・担任からの評価，励ましを記入する。

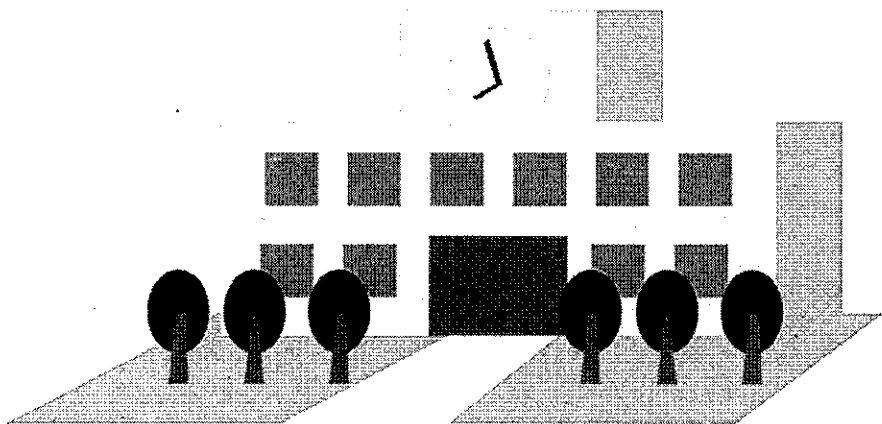
3 保護者への啓発を工夫する

- (1) 学校から家庭へ配布するお便りを利用して，家庭学習の大切さを伝える。
 - ・学校だより，学年だより，学級だより，研究だより
- (2) 学級懇談や教育相談などの機会を活用して家庭に協力を呼びかける。
 - ・家庭学習のすすめを配布し，学習の方法を紹介する。
 - ・テレビ，DVD，スマホ，携帯，ゲームなどの約束ごとを家庭で話し合う。

4 学習時間を確保するための取組

- (1) 放課後の取組（スクールバス待ちの時間を活用した学習会等含む）
 - ・テスト前の部活動停止期間に学習会を実施する。
 - ・学習場所を提供する。
- (2) 長期休業中の取組
 - ・長期休業中に学習会を実施する。（前半は学習習慣づくり，後半はテスト対策，等）

「学力向上に向けた 『5つの提言』活用のポイント」 各校の活用事例



今年度は、児童生徒と教師の意識の乖離が大きい

提言3

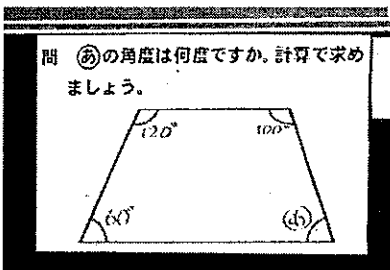
『授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題
や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること』

について、各学校の実践例を研究主任（平成29年度）がまとめました。

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科 算数科 (第5学年)
- (2) 単元名 図形の角を調べよう
- (3) 本時の目標 四角形の角の大きさを計算で求めることができる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ① 導入時に本時の終末に適用問題として取り組ませる問題を提示する。

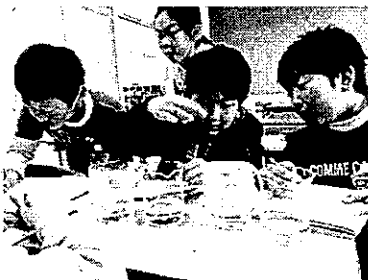


C: 分度器は使っていいんですか?
 T: 分度器は使えません。三角形と同じように計算で求めましょう。
 C: 三角形は内角の和が 180° だったけど、四角形は…
 C: じゃあまず四角形の内角の和を調べる必要があるね。
 C: 内角の和が分かれば残りの3つの角を引けば分かるね。

- ② 解決するために必要なことを整理し、児童の発言を受けて課題を設定する。
- ③ 四角形の内角の和を理解したところで導入で示した問題にもどり、見通しに沿った学びの成果を実感させる。

実践例②

- (1) 教科 理科 (第4学年)
- (2) 単元名 自然の中の水のすがた
- (3) 本時の目標 観察で得られた結果を整理して自然界における水の循環についてまとめ、海で起きている「けあらし」について説明することができる。
- (4) 適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間の設定
 - ① 観察の結果を整理し、自然界で水が循環していることを図を使って考察する。



C: ラップを被せたビーカーはあまり水が減っていないね。
 C: でもビーカーの内側に水滴がたくさんあるから蒸発はしてるけど水蒸気の逃げ道がなかったんだね。
 C: 海水も日向に置いた方はずいぶん体積が減っていたよ。
 ※水道水を入れたビーカーだけでなく、湿らせたタオルを入れたビーカー、海水を入れたビーカーも設置しておく。

- ② 気仙沼の海で起きる「けあらし」の映像を見せ、学んできたことを生かして説明させる。
- ③ 自分たちが学んできたことを身の回りの事象と結び付けることで理解を深めるとともに、身の回りで起きている自然事象に興味をもたせる。

(2) なぜこのような現象が見えるのでしょうか。「気温」「水蒸気」「海水」という言葉を使ってできるだけ詳しく説明しましょう。

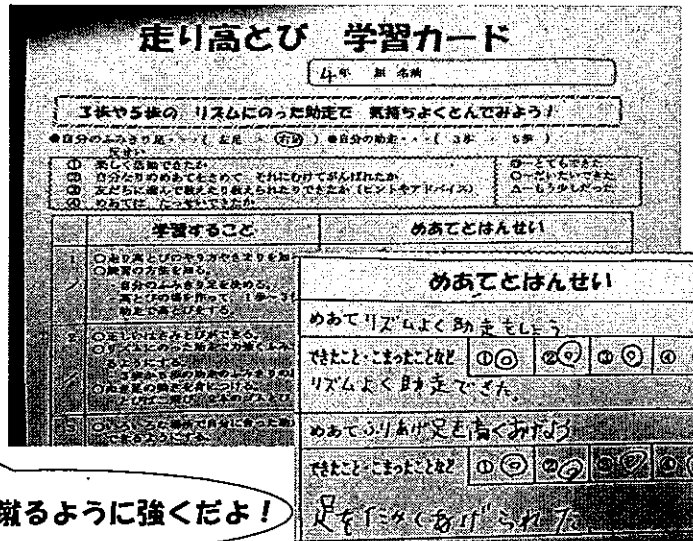
海水からし。起。た。気。体。か。気。温。が。低。い。の。せ。い。で。水。蒸。気。が。冷。や。か。れ。湯。気。の。か。た。り。が。起。こ。る。

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科 体育科 (4年生)
- (2) 単元名 走り高跳び
- (3) 本時の目標 リズムにのった助走で力強く踏み切ることができる。
- (4) 単元時間のねらいを明確にし、児童に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

- ① 動画や図、師範演技で動きをイメージさせ、学習計画表で単元の学習の見通しを持たせる。
- ② 振り返りで自分の課題を見つけて、次時の課題に生かせるようにする。



踏切りが弱いんだって。床をドンと蹴るように強くだよ!

- ③ 擬態語やキーワードで動きをイメージさせ、自分なりの具体的なめあてを持たせる。

「ト〜ン・ト・ト〜ン」のリズムで…

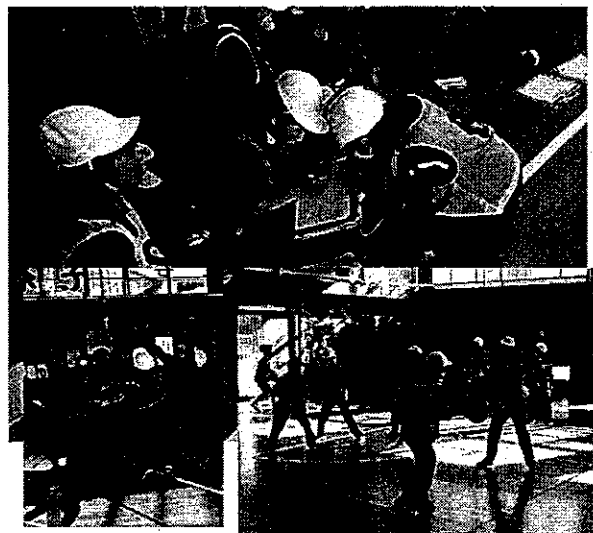
「振り上げ足はまっすぐ蹴るように！」

【○成果と●課題】

- 画像で走り高跳びの一連の流れを確認させ、学習カード（学習計画表）を使用させたことで単位時間ごとの各自のめあての設定が容易にできた。
- 「ト〜ン・ト・ト〜ン」という擬態語を示して助走のリズムをイメージさせることができ、スピードのある助走ができた児童が多かった。
- 「ナイス、ドンマイ」など、掛け声を掛け合い、励まし合って活動できていた。
- 導入をコンパクトにして、「学び合い」の時間を確保する必要がある。

実践例②

- (1) 教科 体育科 (5年生)
- (2) 単元名 バスケットボール
- (3) 本時の目標 どんな場面でドリブルを使うのかを考えて、上手にドリブルができる。
- (4) 単元時間のねらいを明確にし、児童に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ① 学習カード（学習計画表）で学習の見通しをもたせ、各自のめあての設定と自己評価を単位時間ごとに書かせる。
 - ② チェックシートを使ってお互いの動きを見合い、ゲーム中の友達のパスやシュート、ドリブル等の回数を記録してアドバイスを与える。そのことで、自分の課題を自覚させ、次時に自分なりのめあてを設定させる。



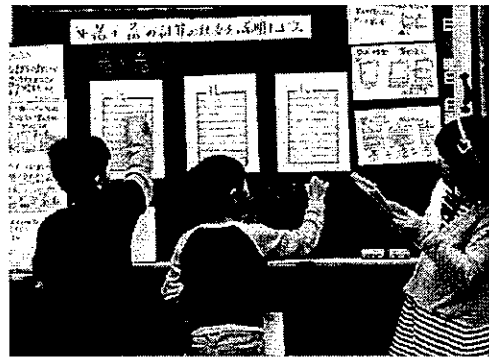
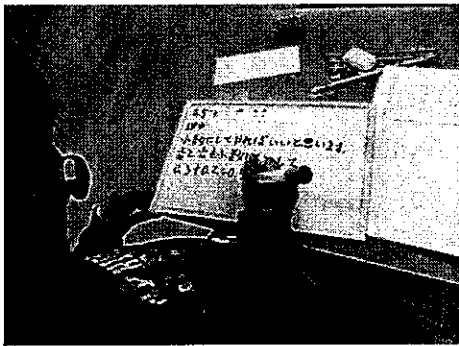
【○成果と●課題】

- チェックシートを活用することで、友達のゲームの中の動きをよく観察でき、アドバイスを与えやすくなった。チェックシートやアドバイスの内容から、前時の自分の動きを振り返り、自分なりの課題をつかんで次時のめあてに結び付けられ、意欲を持続させることができた。
- 主運動につながる動きを3つのセットメニューとして位置付け、ローテーションで効率的に技能の向上を図ることができた。
- ドリブルインバーダーの後にアドバイスをし合う、「学び合い」の場を設定してもよかった。

提言 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 算数(3年)
- (2) 単元名 分数
- (3) 本時の目標 分数の加法計算の仕方について説明できる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ① 導入で既習の小数のたし算の場面を取り上げることで、数が分数でも立式と計算の構造はそのままであることを把握させることができた。そのため、場面理解がそのまま「見通し」にもなった。
 - ② 児童のつぶやきを拾いながら、児童が「考えた」と同じ状態で、「～を使って考え、図、式、言葉で説明し合おう」という学習課題を設定した。
 - ③ 課題設定の後、「本時のゴールは？」と投げかけることで、「説明すること」が本時のゴールであることの意識付けができた。
 - ④ 教科書会社の指導書には、「～を考えよう」という課題が設定されていることが多い。しかし、指導書の課題をそのまま課題にするのではなく、児童の実態や本時の目標から、本時のゴールをイメージしやすい具体的な課題を設定した。



実践例②

- (1) 教科(学年) 算数(1年)
- (2) 単元名 ひきざん
- (3) 本時の目標 11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、減数を分解して計算する方法(減々法)があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。
- (4) 授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間の設定
 - ① 算数科の学習過程「鹿折小スタンダード」の確立により、児童も学習過程に見通しを持つことができ、効率的に授業を進めることができた。その結果、適用問題と振り返りの時間を確保できた。
 - ② 本時のまとめを活用する適用問題を設定したことで、理解度を確認することができた。
 - ③ 簡単な観点を与え、◎○△でノートに記入させたことで、短時間で振り返りを行うことができた。
 - 【本時の振り返りの観点】 ・ 計算の仕方や説明をノートに書くことができたか。
 - ・ 計算ができたか。

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科 (学年) 算数 (第4学年)
- (2) 単元名 小数のかけ算とわり算を考えよう
- (3) 本時の目標 1/10の位までの小数に1位数をかける筆算の仕方を理解し、その計算ができる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

<前時の学習と本時の学習の違いを問うことで、本時の課題を明確にし、見通しを持たせる。>

①前時の復習を行う。

・ 0.3×6 0.7×9 など

②本時で扱う問題を読んで立式し、前時の問題との違いを考える。

・ 3.6×7 前の時間に学習したことと、どんなところが違うのでしょうか。

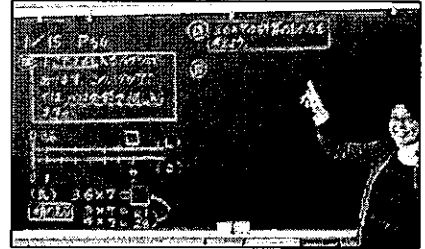
児童の反応

かけ算九九では
できない。

2けた×1けた
の計算だ。

かけ算の筆算で
計算できそう。

③解決の見通しを持ちより、グループで解決を図る。



実践例②

- (1) 教科 (学年) 理科 (第6学年)
- (2) 単元名 電気と私たちの暮らし
- (3) 本時の目標 手回し発電機で電気を作り、どのように利用できるかを調べる。
- (4) 授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間の設定

<感想の生かし方、書かせ方>

① 前時の感想をモニターに映して紹介し、意欲を高める。

『モーターのじくを回して発電できることが分かりました。発電した電気でいろいろなことをしてみたいです。』

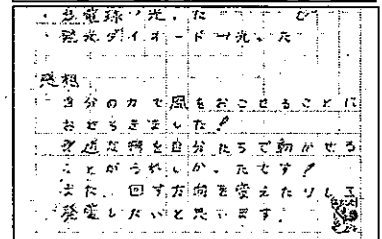
② 手回し発電機で作った電気を用いて、明かりをつけたり、音を出したり、モーターを回したりする。

③ 実験の結果を整理する。(2時間の内容。まとめは次時行う。)

④ 感想を記入する。

<留意点>

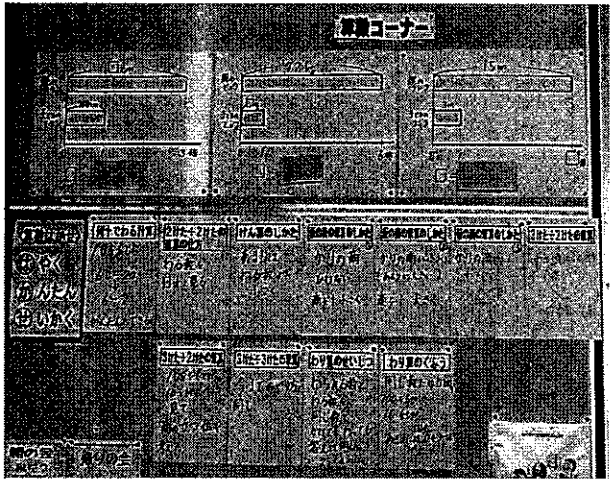
- ・ 2分で3行以上書くことを条件に書かせるようにした。
- ・ 授業の終末で2名に発表させ、次時、数名紹介した。
- ・ 数名の感想を写真で記録しておき、次時の導入で紹介した。



提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

実践例①

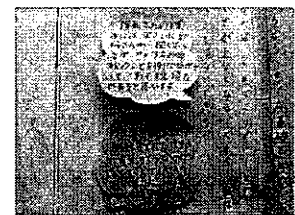
- (1) 教科(学年) 算数科(4学年)
- (2) 単元名 わり算のしかたを考えよう [わり算の筆算(1) - わる数が1けた]
- (3) 本時の目標
3位数÷1位数=2位数(首位に商が立たない)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ① 掲示した学習計画表をもとに前時までの学習を想起させる。
 - ② 本時の問題「百の位を分けることができない」と前時「百の位でわれた」の違いを確認する。
 - ③ 本時の課題を話し合う。「十の位から商が立つ筆算について考えよう」
 - ④ 課題解決
 - ⑤ 振り返り：(児童用)学習計画表に評価を記号でチェックし、学習のまとめをノートに書く。
 - ⑥ 学習のまとめを発表し合い、学習のポイントとなるキーワードを掲示した学習計画表に書き入れる。



* 掲示した学習計画表に習得した算数用語を書き加えていきながら繰り返し活用していく。

実践例②

- (1) 教科(学年) 国語科(6学年)
- (2) 単元名 新聞の投書を読んで意見を書こう ~新聞の投書を読み比べよう
- (3) 本時の目標
書いた投書を互いに読み合って感想を交流する。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定



- ① 学習計画表を使って、本時の内容や到達すべきレベル(「めざす姿」)を把握させる。
- ② 本時の課題を話し合う。
「書き手がどのような事例を挙げて説得しようとしているのかを考えよう。」
- ③ 「めざす姿」をもとに批評し、感想を伝え合う。

新聞の投書を読んで意見を書こう
新聞の投書を読み比べよう
◇四つの投書を読み比べ、文章に表れている書き手の工夫について読み取り、自分の考えを書くことができる。

【学習の流れ】

① 新聞の投書を読み比べ、文章に表れている書き手の工夫について読み取り、自分の考えを書くことができる。	② 新聞の投書を読み比べ、文章に表れている書き手の工夫について読み取り、自分の考えを書くことができる。	③ 新聞の投書を読み比べ、文章に表れている書き手の工夫について読み取り、自分の考えを書くことができる。	④ 新聞の投書を読み比べ、文章に表れている書き手の工夫について読み取り、自分の考えを書くことができる。	⑤ 新聞の投書を読み比べ、文章に表れている書き手の工夫について読み取り、自分の考えを書くことができる。	⑥ 新聞の投書を読み比べ、文章に表れている書き手の工夫について読み取り、自分の考えを書くことができる。
---	---	---	---	---	---

四つの投書を読み比べ、文章に表れている書き手の工夫について読み取り、自分の考えを書くことができるようになる。

【目標目安】

やる気	1 最後まで通読する。	2 読んで書き手の主張や感情の工夫を読み取り記述している。	3 投書の構造を捉え、読んで書き手の主張や感情の工夫を読み取り記述している。
読む	文章の内容を字面から読んでいく。	投書を読み比べ、それぞれの書き手の感情の工夫を捉えていく。	投書の構造、理由づけの仕方や感情の表現の工夫を読み比べ、それぞれの書き手の感情の工夫を捉えていく。
書く	自分の考えを文章に書いていく。	書き手がどのような事例を挙げて説得しようとしているのかを捉え、自分の考えを文章に書いていく。	自分の考えが読み手に伝わるように、理由を工夫し、理由を明確にして投書を書いていく。
ことばのわかる	投書の意味がわかる。	投書を読み比べ、文章に表れている書き手の工夫を読み取り、自分の考えを文章に書いていく。	投書を読み比べ、文章に表れている書き手の工夫を読み取り、自分の考えを文章に書いていく。

【学習のふりかえり】

- ① この学習でどんなことができたかな。
- ② 友達のことを聞いて、よかったことを新しく気づいたことはどんなことかな。
- ③ この学習を、これからどのように生かしていきたいかな。

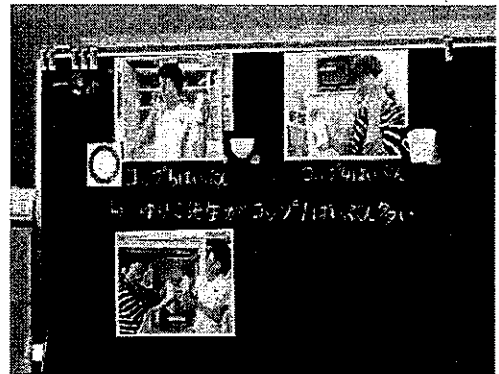
提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 算数(2年)
- (2) 単元名 水のかさをはかろう
- (3) 本時の目標 任意単位の必要性に気づき、体積の表し方を考えることができる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

①2人の先生が水筒に入る水のかさを電話で比べている時の不思議を問題とし、ストーリー性のある問題提示を行った。

②比べているコップの大きさが違うため正しく比べられないという問題点に、コップの実物を見せながら気付かせた。その後、任意単位の必要性につなげた。

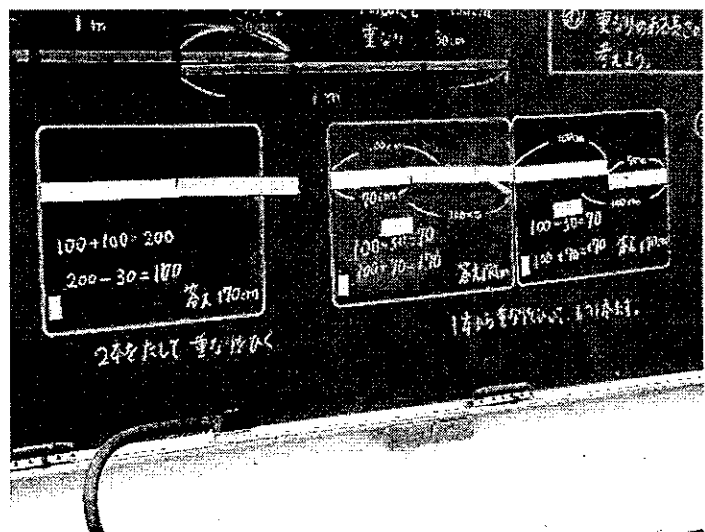


実践例②

- (1) 教科(学年) 算数(3年)
- (2) 単元名 考える力をのぼそう～重なりに目をつけて～
- (3) 本時の目標 2つの量の重なる部分に着目して解く問題の解決を通して、問題解決の能力をのぼす。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

①教室の後ろにある「掲示板の高さを調べる」という身近な問題を提示し、児童の興味を引き出した。

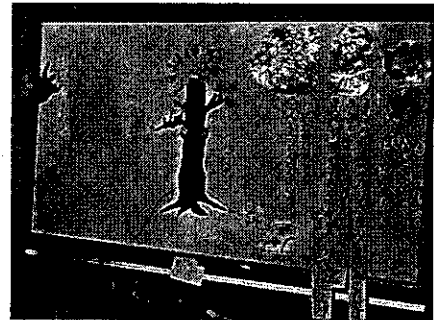
②「1mものさし1本では測ることができず、2本使ったところ重なりが出た」という問題場面を黒板に物差しを掲示して捉えさせた。その後、テープ図へ移行して考えさせた。



提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 国語(1年)
- (2) 単元名 「おとうとねずみチロ」
- (3) 本時の目標 おばあちゃんに呼びかけ、お願いをしたときのチロの様子を想像しながら読むことができる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ① 毎時の導入において児童の初発の感想を取り入れながら、本時の学習のねらいを明確にする。
 - ② 学習計画表を場面図で掲示して、黒板上で掲示物を動かしながら、学習場面をしっかりとつかませる。
 - ③ 本時の流れを書いたホワイトボードを提示し、授業の見通しをもたせる。



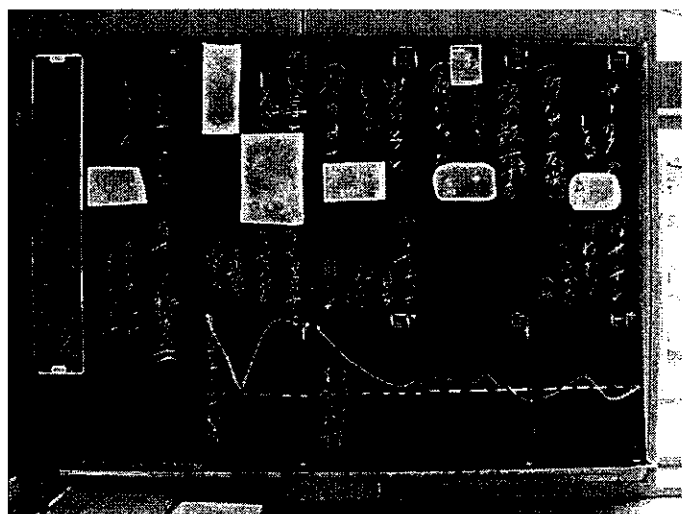
場面図で示した学習計画表



本時の流れを示すホワイトボード

実践例②

- (1) 教科(学年) 国語(3年)
- (2) 単元名 「サーカスのライオン」
- (3) 本時の目標 じんざと男の子の関係の深まりを読み、じんざの気持ちの変化を想像することができる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ① 毎時の導入において、移動できる短冊黒板に書いた児童の初発の感想を取り上げながら、本時の学習のねらいを明確にする。
 - ② 学習の見通しが持てるように、初発の学習感想を基に、学習計画表を作成し掲示する。



移動できる短冊黒板に書いた児童の感想

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書くことを位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 算数科(6年)
- (2) 単元名 形が同じで大きさがちがう図形を調べよう〔拡大図と縮図〕
- (3) 本時の目標 実際の長さを、作図した縮図を使って求めることができる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ①課題解決への意欲を持たせるために、実際にある「校庭の掲揚塔の高さを求める」という学習課題を設定する。
 - ②本時の課題解決に必要な既習内容を全員で確認する時間を十分に確保する。
 - ③課題解決方法の見通しを持たせるために、問題場面となる掲揚塔の写真を提示したり、求めたい長さや縮図に表すために必要な条件を視覚的に捉えることができるように書き込んだりするために、ICT機器を活用する。

実践例②

- (1) 教科(学年) 算数科(1年)
- (2) 単元名 おおきいかず
- (3) 本時の目標 2位数の数え方、唱え方や位取りの原理と記数法を理解し、40より大きい数を正しく数えて数字で書き表すことができる。
- (4) 授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間の設定
 - ①自力解決やペア学習で活用したワークシートと同様の形式のものを適用問題でも活用し、学習内容の定着を図るとともに、本時の指導の評価に生かす。
 - ②適用問題は、個人差に配慮して「共通の問題」と「難易度の高い問題」を準備し、様々な問題に取り組むことができるようにする。
 - ③適用問題は、半具体物を正しく数える問題や算数ブロックや位取りを意識させた問題を組み合わせるなど思考の段階を考慮したものにする。

実践例③

- (1) 教科(学年) 算数科(4年)
- (2) 単元名 広さを調べよう〔面積のはかり方と表し方〕
- (3) 本時の目標 既習の長方形や正方形の面積を求める学習を活用して、長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を考え、面積を求めることができる。
- (4) 授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間の設定
 - ①課題解決の中で、複合図形の面積を求める多様な考えを確認した上で、「自分のお気に入りの方法」という視点で本時の学習活動を振り返らせ、自分の言葉で感想を書く時間を確保する。
 - ②児童の実態に合わせ、本時で身に付けさせたい力に焦点化させるため、異なる複合図形の問題は扱わず、様々な複合図形は次時に取り組みせる。

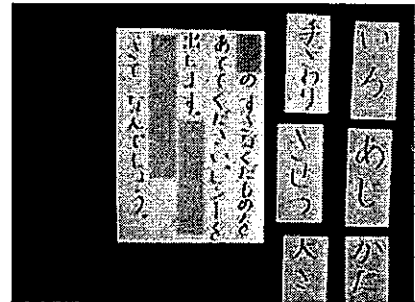
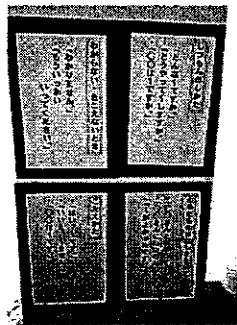
提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 国語科(1年)
- (2) 単元名 「すきなもののクイズ」をしよう
- (3) 本時の目標 クイズの手順を理解し、相手の話をよく聞いて質問したり質問に答えたりすることができる。
- (4) 単元時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

① 会話で使う言葉や話型を掲示することにより、児童が分かりやすく相手に伝えることを意識できるようにする。

- ・日常的に質問の仕方や分からない時の聞き方など、児童の実態に合わせた話型を掲示し、いつでも確認できるようにした。児童の実態に合わせた話型を掲示した。
- ・クイズのヒントとなる観点を掲示し、様々なヒントを考えられるようにした。



② 教師が本時の活動の例を示し、活動意欲の喚起を促すとともに、活動の見通しを持たせる。

- ・ハンドバペットを使い、教師が質問の仕方や答え方の例を示すことにより、児童の関心を高めながら、具体的な会話のやり取りをイメージさせることができ、学習活動に取り組ませることができた。



実践例②

- (1) 教科(学年) 国語科(4年)
- (2) 単元名 人物の様子や気持ちを考えながら読もう
- (3) 本時の目標 中心となる人物の気持ちの変化をとらえ、変化した理由を考えながら読むことができる。
- (4) 授業の終末に適用問題や小テスト、感想を書く時間の設定

① 授業のまとめに、教材文の登場人物になったつもりで他の登場人物への手紙を書かせる活動を取り入れる。

- ・登場人物の気持ちや行動の変化について学習したことを、より具体的にとらえさせるため、単元を通し、主人公の立場になって、他の登場人物へ手紙を書く活動を行った。主人公の心や行動の変化を児童に気付かせるだけでなく、主人公に影響を与えた周囲の人物の行動にも注意を向けて読ませることができた。



② 児童の手紙の内容は、掲示された学習計画表と合わせて掲示する。

- ・児童が書いた手紙を、本単元の学習期間掲示している学習計画表に追記していくことで、児童に学習の流れを確認させるとともに、読みの深まりを実感させることができた。

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 総合的な学習の時間(5学年)
- (2) 単元名 「海と生きる 気仙沼」(小単元名「気仙沼をもっと深く調べよう」)
- (3) 単元の目標

気仙沼の基幹産業である水産業や水産物を支える環境(自然・人); 魚食について探究する活動を通して自分たちの生活が自然環境を生かし、地域の人々の努力に支えられながら成り立っていることに気付く。

- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見直しを持たせるための学習課題の設定

事前に意識調査を行い、「海で遊んだ経験が少ない」「海や水産業に対する関心はあるが、身近に水産業に携わる人がいない」「個人探究の経験が少なく、探究のためのスキルを身に付けていない」という実態を把握し、学習過程の見直しを図った。具体的には、課題設定段階の活動を重視し、課題を設定する前に海や水産業に触れる体験を複数回行った。体験活動には、自然探索活動や専門家の助言も取り入れ、体験の質の向上を図った。(図1)

教師主導の行動目標ではなく、児童自身から「問い」を引き出し、それらをもとに個人の探究課題を設定させた。問いを課題につなげるため、体験や感想を記録するワークシートや問いを引き出す発問を工夫した。また、課題を見直したり、解決の見直しを持たせたりするためにグループによる情報交換の機会を設定した。(図2)

学習活動の道筋の見直しを持たせるために、教室には、常時、全体計画と個人の課題を提示した。単位時間の導入時には、本時の課題と活動内容を提示し、児童に活動のめあてを設定させた。



図1 実態をもとに海に触れる活動を実施(水産試験場職員とともに磯観察)

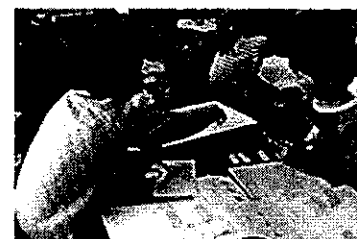


図2 個人で設定した課題を見直すための交流活動の様子

実践例②

- (1) 教科(学年) 国語科(2学年)
- (2) 単元名 あなたのやくわりを考えよう(教材名「あなたのやくわり」)
- (3) 本時の目標 身の回りにある穴のあいている物の役割を考え、構成や述べ方を考えて文章に書く。
- (4) 授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間の設定

学習感想を書く際に、観点を示したり、「○行で」「□□□という言葉を使って」等の条件を示したりした。このことで、児童が本時のねらいや学習内容に沿って学習を振り返ることができた。

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付ること

実践例①

(1) 教科(学年) 理科 (6年)

(2) 単元名 「電気と私たちの暮らし」

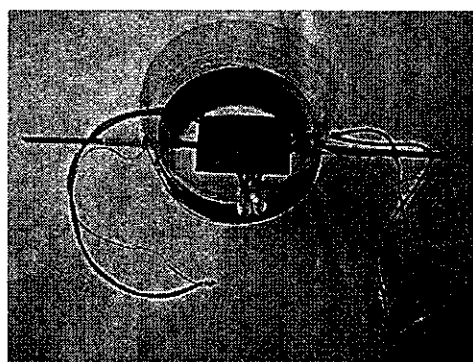
(3) 本時の目標

発電の仕組みや電気の利用に興味をもち、自分たちで発電することができるかについてモーターを回して調べることができる。

(4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

①「電気がなかったらどんな一日になるかな」を課題とし、グループで話し合わせることで、電気の利用が生活に必要であることに気付かせた。

②「電気はどこから手に入れるかな」を課題とし、電気は作り出す物であることと、その方法について既習事項を基に推察させた。



(コイルと磁石による発電を実感させるための教材)

実践例②

(1) 教科(学年) 国語科 (4年)

(2) 単元名 「ある人物になったつもりで」

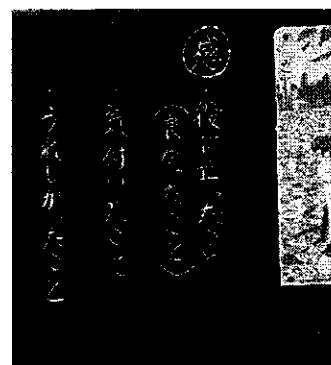
(3) 本時の目標

「想像メモ」を友達と読み合って感想を伝え合い、さらに想像を広げることができる。

(4) 授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間の設定

①「想像メモ」へのアドバイスや質問に対して感じたことや、表現の工夫について感じたことを観点に示し、学習感想を書かせた。

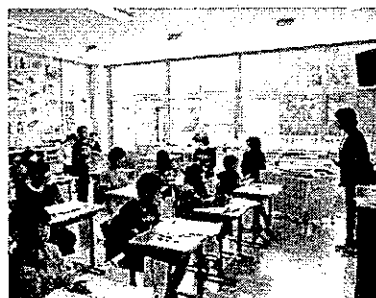
(写真①)



(写真①)

②児童の感想を発表させ、聞き合わせることで学習内容を振り返らせたり自分の感じたことを共有させたりした。

(写真②, ③)



(写真②)

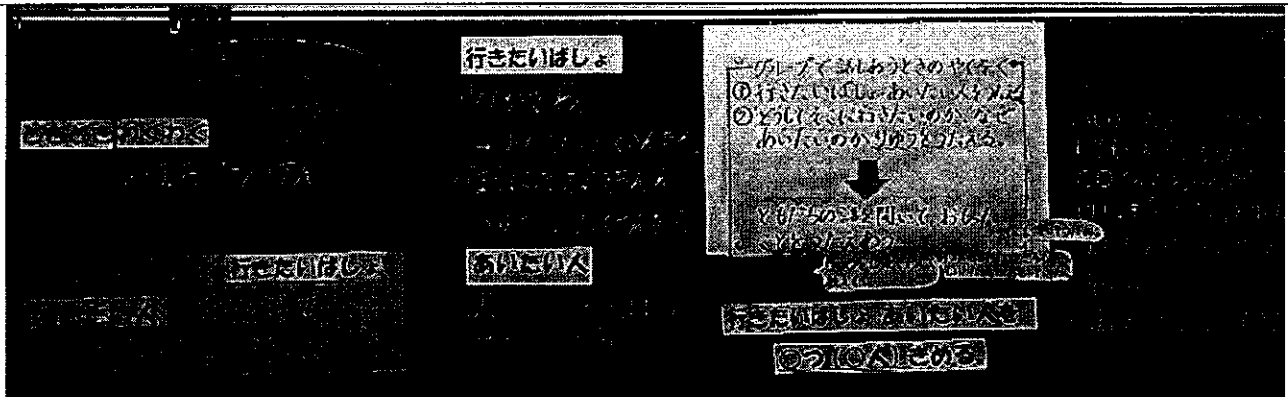


(写真③)

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 生活(2年)
- (2) 単元名 「どきどきわくわく まちたんけん」
- (3) 本時の目標
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ① 本時のねらいを板書で示し、「行きたい場所」「会いたい人」を決めるという本時の活動の見通しを持たせた。また、板書を工夫し、1単位時間の学習内容の振り返りができるようにした。
 - ② 「話合いの手順」や、「行きたい場所や会いたい人を○つ(○人)決める」という条件等を示すことで、児童が話し合い活動に見通しを持って取り組めるようにした。



実践例②

- (1) 教科(学年) 理科(5年)
- (2) 単元名 物の溶け方
- (3) 本時の目標 物が水に溶ける量に限界があるかどうかについて疑問を持ち、考えようとする。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ① 児童に問題意識を持たせるために、2つのシュリーレン現象(薄い食塩水と濃い食塩水に食塩を入れたもの)を見せる。なぜ溶け方が違うのかという疑問を持たせる事象提示を行うことで、「食塩の溶ける量に限界があるかどうか」という問題意識をもたせた。
 - ② 前時までの学習内容を想起させることで、問題についてどうやって確かめたらよいか考えさせ、グループ毎に検証計画を立案させた。



提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

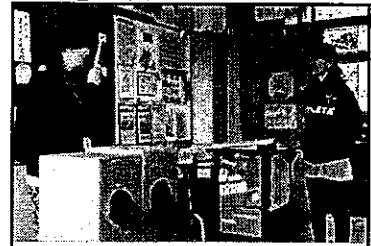
- (1) 教科(学年) 国語科(1年)
 (2) 単元名 「すきなものクイズ」をしよう
 (3) 本時の目標
 相手の話をよく聞き、話題に沿って質問したり質問に答えたりして話し合えることができる。



ヒントボックスで語彙を増やす

- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

- ①「クイズ名人への道」(単元シラバス)を活用することで、児童が単元全体を見通すことができ、意欲が高まり、継続した。児童の実態に応じた内容にし、低学年から積み上げていくことで、感想を書く力も身に付いていくことが期待できる。(実践例②も同様)
 ②「お助けカード」や「ヒントボックス」を活用することで、自力解決に戸惑う児童に限らず参考にすることができ、自信を持って活動できた。活動にスムーズに取り組むことができ、時間の余裕も生まれた。
 ③教師の演示により、児童が活動のイメージや見通しを持つことができ、意欲が高まった。
 ④「チェックシート」の活用により、焦点化して自己評価や相互評価をさせることで、ねらいに対する意識が高まった。



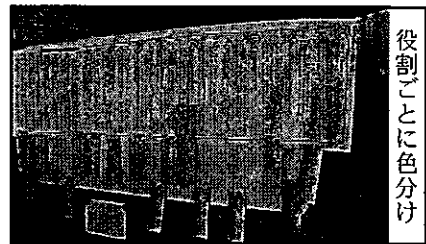
担任と支援員で役割分担して演示

実践例②

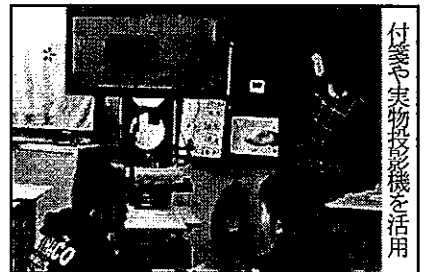
- (1) 教科(学年) 国語科(3年・4年)
 (2) 単元名 「グループで話し合おう(3年)」「クラスで話し合おう(4年)」
 (3) 本時の目標
 話し合いの進め方を意識して、司会の進行に沿ってグループで話し合えることができる。(3年) 司会、提案者、参加者というそれぞれの役割を意識しながら、課題に沿って話し合えることができる。(4年)

- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

- ①自分の考えを書く時間を十分に保障し、「意見カード」に予め書かせることで、児童の意欲の向上やスムーズな発表につながった。
 ②「司会の手引き」や「発言の仕方」を活用し、話型を示すことで、自信を持って発言することができた。
 ③板書の項目を色分けし、カード等で視覚化・構造化することで学習のポイントを明確に示し、活動のイメージを共有できた。音読後に焦点化して確認することで、明確に意識させることができた。(実践例①も同様)
 ④グループに分かれ、話し合いの様子を見合う活動では、チェックカードを活用することで、観点に沿った助言を行うことができた。また、助言を受ける側も、話し合いへの意識が高まり、次の活動への意欲付けにつながった。



役割ごとに色分け



付箋や実物投影機を活用

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 算数(2年)
- (2) 単元名 100より大きい数を調べよう
- (3) 本時の目標 1000までの数の構成を多面的に捉え、数の見方を理解する。



(4) 授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間の設定

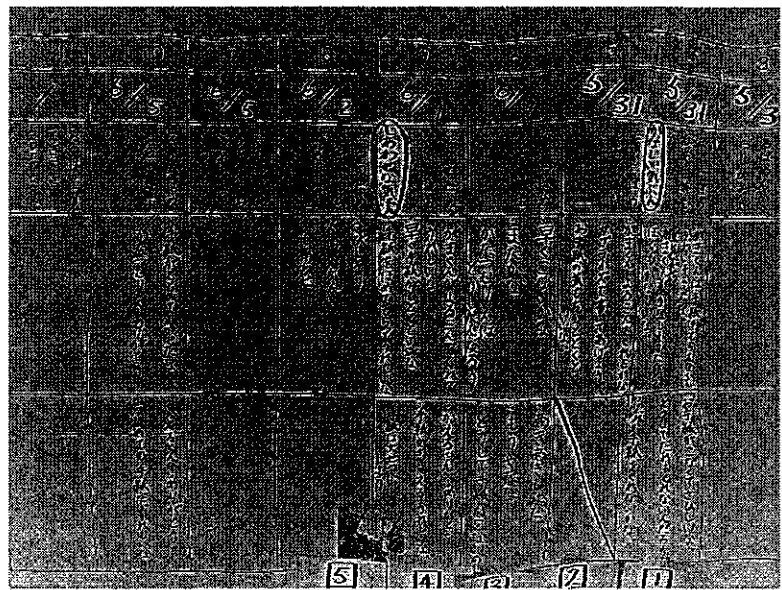
- ①0から始まる数直線を提示し、100ごとに目盛りがあることや、最小目盛りが10であることを押さえた上で、「分かったことや気付いたこと」を中心に学習感想を書かせた。ある数のまとまりで数えたり、規準となる数との比較で捉えたりすることのよさに気付いた児童が多かった。また、他の児童の意欲付けになるようなことを書いた児童に発表させ、全体で共有することで、児童の気付きを広げることができた。
- ②ある数のまとまりで数えることに気付いた児童の感想を取り上げ、次時の「何十たす何十」や「何十ひく何十」の計算への意欲を高めさせた。

実践例②

- (1) 教科(学年) 国語(2年)
- (2) 単元名 ばめんごとに読もう「お手紙」
- (3) 本時の目標 幸せな気持ちで手紙を待つかえるくんとがまくんの様子や気持ちを想像しながら読むことができる。

(4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

- ①単元導入時には、学習計画表を提示し、めあてや学習活動、最終目標を捉えさせることで学習の見通しをもたせた。また、毎時間のはじめにも、学習場面とこれまでの登場人物の様子や気持ちを確認するために学習計画表を活用し、これまでの学習について振り返らせた。学習計画表には読み取ったことを記入し、教室に掲示していつでも確認できるようにした。
- ②児童用にも学習計画表を配付し、ノートに貼って活用した。児童用には、授業の終末に分かったことや気付いたことを記入し、振り返りができるようにした。



提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

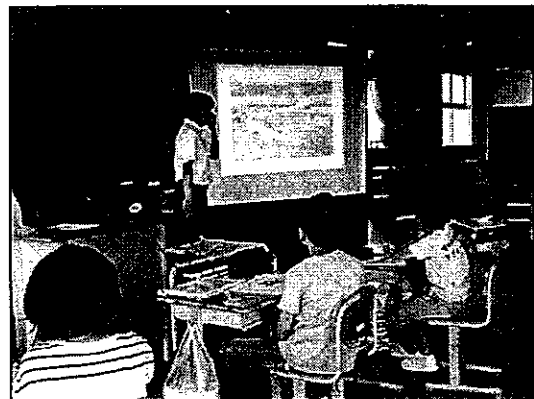
- (1) 教科(学年) 算数科(6年)
- (2) 単元名 速さの表し方を考えよう
- (3) 本時の目標 単位量当たりの大きさの考え方を基に、速さの比べ方について式を用いて考え説明している。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ①前時までに児童から出された速さの求め方を画用紙にまとめておき「たくみ作戦」、「葵作戦」、などやり方を想起しやすいネーミングを付けて提示することにより、児童に課題解決への見通しを持たせた。
 - ②実際に計測した児童の短距離走の記録を提示し、学級の中で「誰が一番速いか調べよう」と問いかけることで、解く必要感と解いてみたいという意欲を持たせることができ、課題設定につながった。
 - ③児童の発言から、「誰が一番速いかを、できるだけ早く、簡単に調べる方法を考えよう。」という学習課題を設定したことで、単位時間のねらいが明確になるとともに、児童の課題解決への意欲が高まった。



自力解決の様子

実践例②

- (1) 教科(学年) 特別活動(学級活動)(4年)
- (2) 題材名 自分の身は自分で守る
- (3) 本時の目標 気象災害から、どのようにして自分の身を守ればよいのかを考える。
気象災害から自分の身を守る方法を理解している。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ①前時までに学習した大雨や強風、大雪などの気象災害について、画像を提示したり、「未来へのきずな」を活用したりして振り返ることで、気象災害が発生したときにどのように避難するのか考えていくという授業のねらいが明確になった。
 - ②8月に小泉地区の二十一浜で発生した、集中豪雨による道路の冠水についての新聞記事を提示することで、児童に気象災害は身近なところでも起こる可能性があることを意識させ、学習課題の設定へとつなげた。
 - ③児童の発言から「雷、局地的大雨のときに、自分の身を守る方法を考えよう。」という学習課題を設定したことで、単位時間のねらいが明確になった。



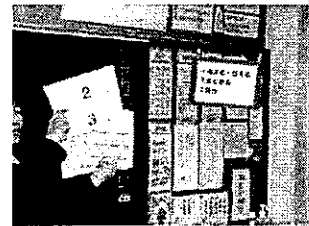
画像を活用した既習事項の振り返り

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

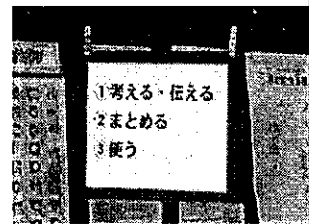
実践例①

- (1) 教科(学年) 算数(6年)
- (2) 単元名 分数のかけ算を考えよう
- (3) 本時の目標 真分数×真分数の計算のしかたを考え、その計算ができる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

①導入時にフラッシュカードで既習事項を確認したことが、学習のヒントになっていた。さらに、ヒントコーナーで生かすことができた。



②学習の流れ「考える・伝える」「まとめる」「使う」を示したことで、1時間における学習の見通しを持つことができた。終末の適用問題を「使う」という言葉で提示したことで学習の見通しを持つことにつながった。

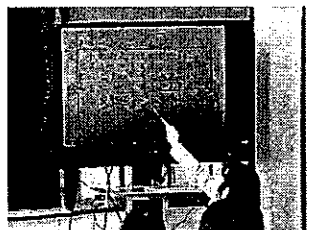


③苦手意識を持つ児童には、ヒントカードを2種類示したことで、個々のつまづきに合ったものを選択させることができ、学習の見通しを持つことができた。

実践例②

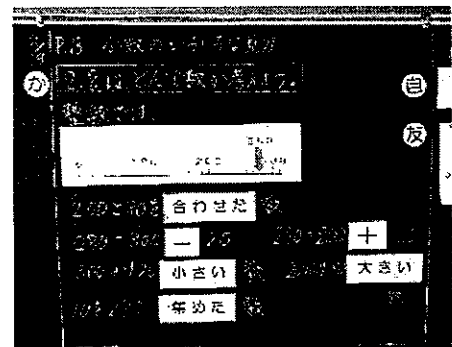
- (1) 教科(学年) 算数(3年)
- (2) 単元名 はしたの大きさの表し方を考えよう
- (3) 本時の目標 小数の意味や表し方について理解し、少数の加減計算ができるようにする。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

①前時の授業感想から児童の実態を把握し、「児童が学びたい」と感じる学習課題を設定することができた。



②ICTを活用した画像を提示し、前時の学習や既習事項(ノート)を振り返らせることにより、本時の学習への意欲を持たせたり、見通しを持たせたりできた。

③算数の1～6年生までの系統性を洗い出し、ねらいを明確にするとともに、児童の実態を把握して課題を設定し、進め方を工夫することにより、算数的な考え方を導き出すことができた。



提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 算数(4年)
 (2) 単元名 およその数に表し方を考えよう
 (3) 本時の目標 きっちりした数をおよその数にすることを通して、概数の意味について理解する。
 (4) 授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間の設定
 ①子どもたちにとって身近で、具体的な場面(貯金額・校外学習先までの距離や時間)の適用問題を用意することで、およその数がどんな時に使われるのか、どうして使われているのかなど、概数の意味やよさについて理解することができた。
 ②指導過程の見通しと自力解決の時間を短縮し、振り返り(まとめ・適用問題・学習感想)の時間を保証した。
 ③観点を明確にした自己評価の他に、新しい疑問や「今日の学び」についての文章表記もさせたことで、概数についてさらに興味・関心を高めさせることができた。
 『児童の振り返りの感想ノートより』

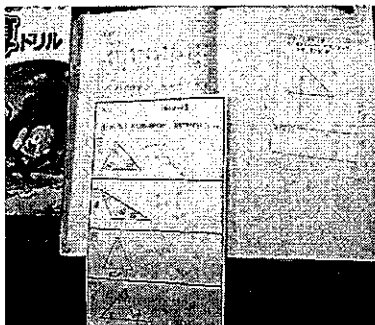
【振り返りの表記】
 ・本単元までは
 自己評価：90点
 ↓
 ・本単元・本授業後
 自己評価：約90点

【新たな疑問】
 ・答えを求めるときは5より大きいのか小さいかで決まる。ぴったりのときは、どちらにすればいいのですか。

【がい数のよさの気付き】
 ・「約」をつけることが大切だと思った。小数も、がい数を使うのかな。がい数は、一番かんたんだと思う。

実践例②

- (1) 教科(学年) 算数(5年)
 (2) 単元名 図形の角を調べよう
 (3) 本時の目標 計算で三角形の角の大きさを求めることができる。
 (4) 授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間の設定
 ①導入時、授業の見通しと意欲を持たせるために、既習事項の確認や前時の学習内容との相異点を捉えさせ、展開で学び合う時間を設定する。
 ②次時への意欲につながり、個に応じた達成感を得られるように、適用問題の問題数や難易度を児童に選択させる。
 ③振り返りの際、自己評価の観点を明確にする。それを発表することで、友だちの考えのよさに気付いたり、感想の質を高めたりする
 ④本時で学習したことを家庭学習でも復習し、学習内容の定着を図る。



本時(三角形の内角の和は 180°)の授業後、家庭学習で三角形を6こ作図し、「三角形は全部 180° なんですね。」とノートにまとめた。

【適用問題：問題数選択制と発展問題】

【振り返り：学び合いのよさの感想】

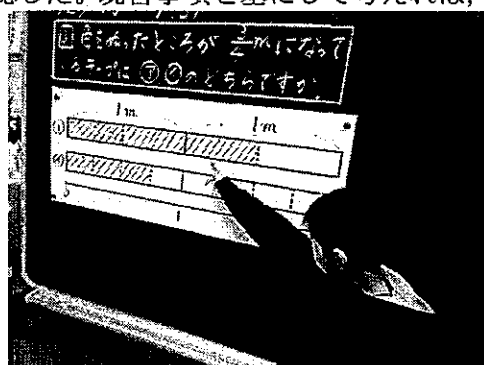
【授業後：次の日の家庭学習ノート】

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 算数(3年)
 (2) 単元名 はしたの大きさの表し方を考えよう～分数を使って
 (3) 本時の目標 $3/4$ mと、もとの長さの $3/4$ の違いについて理解する。
 (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

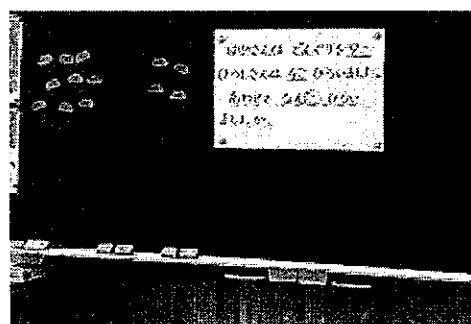
本時は、11時間扱いの7時間目である。授業の導入で、本時の課題解決に必要な既習事項を確認した。テープ図をもとに、前時までの学習を振り返らせ、分数は「『もとにする大きさ』の1mを何等分したうちのいくつ分」で考えることを確認した。既習事項を基にして考えれば、本時の課題が解決できるという見通しを持たせたことで、全員が1mをもとにして正しく考えることができた。また、教師が敢えて誤答を提示し、なぜそれが誤答になるのかということを考えて説明させ、2つの分数の違いについての理解を深めた。問題の題意を捉えさせるために、拡大テープ図を掲示した。児童は、問題場面を正しく捉えることができ、考えを説明する際にも掲示物を活用することができた。



実践例②

- (1) 教科(学年) 算数(1年)
 (2) 単元名 たしざん
 (3) 本時の目標 1位数同士の繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法(加数分解)を理解する。
 (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

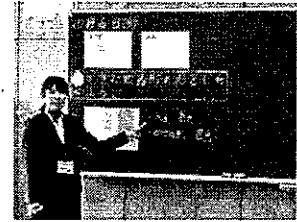
本時は、13時間扱いの1時間目である。授業の導入で、どんぐりマラカスで遊んだ経験を想起する拡大写真を提示し、どんぐり集めへの関心を持たせた。拾ったどんぐりの数を合わせるといくつになるかという本時の問題の題意を捉えさせるために、黒板に折り紙のどんぐりを掲示した。児童は、たくさんのどんぐりを「合わせる」ということに興味を持って、数えたり、考えたりしていた。また、教室前面の算数コーナーに既習事項である「10と4で14」等を掲示したり、動かせるパラバラのどんぐりを使用したりしたことは、10のまとまりを作ると素早く簡単に計算できるという考え方に児童が気付く助けとなった。教科書の問題文を拡大した紙板書に線を引き、児童には教科書に線を引かせながら読ませた。児童は、どんぐりの替わりのブロックを操作したり、ノートに同じ数の○印を書いたりしながら、どのようにすれば素早く簡単に計算できるかについて考えることができた。



提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 算数(2年)
 (2) 単元名 「形をしらべよう」
 (3) 本時の目標 正方形を構成要素に着目して見ることを通して、正方形の意味や性質を理解する。



- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

- ① 長方形を切つてできた図形を使い、本時の課題を知る。

「できた四角形は、どんな形でしょう。」→「真四角の形」

「折り紙みたいな形」

できた四角形について調べよう。

「辺の長さがみな同じ形」



- ② 既習図形との違いを知り、課題解決への見通しをもつ。

「形を調べるには、どんなことを調べたらいいでしょう。」→「4つの角の形を調べる。」

「4つの辺の長さを調べる。」

- ③ 角の形や辺の長さに目を付けて、正方形について調べる。(自力解決)

→折って重ねて調べる。三角定規を使って調べる。直角折り紙を使って調べる。

※図形について実感を持ってとらえるために、算数的活動を取り入れる。実際に紙を切つて作った長方形を使い、前時の長方形の特徴と比較しながら、図形を構成要素に着目してとらえることができるようにする。

実践例②

- (1) 教科(学年) 総合(5年)
 (2) 単元名 「過去から学ぶ入谷の防災」
 (3) 本時の目標 ハザードマップを活用して安全な経路を考える。

- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

- ① 「安全に自宅まで帰ることのできるルートを考える」という本時の学習課題を知る。

ハザードマップをもとに大雨のときの安全な経路を考えよう。

- ② グループごとに安全な経路を考える。

「〇〇さんが雨の中△△さんの家に遊びに行きました。帰ろうとしたら雨脚も強くなり、近くの川が増水しています。〇〇さんは、自宅まで何に気を付けて帰りますか。安全な道や歩き方を考えましょう。」

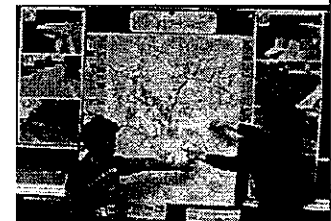
・具体的な大雨の状況を設定し、時間経過による川や道路の様子について想起させる。

「どこでどのような災害が起こりうるか考えて、地図に書きましょう。」

→「川を避けて山側を通ればいい。」「橋を渡るのは危険だ。」「土砂崩れが起きたら道がふさがる。」「川を離れて田んぼ道を通るといいそうだよ。」

- ③ 全体で安全な経路を話し合う。

※導入では、作成したハザードマップで危険箇所や安全箇所を確認させる。そして、本時の学習課題の場面を想定し、自宅までの安全な道を考えさせる。その際、どうしてそのように考えたのか根拠を明確にさせることが大切である。

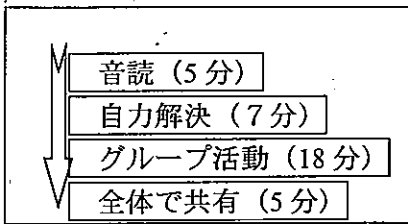


提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置づけること

実践例①

- (1) 教科(学年) 国語科(第6学年)
- (2) 単元名 風切るつばさ
- (3) 本時の目標 第四場面の人物の関係を図にまとめることができる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

- ①授業の見通しを持たせるために、「学習計画表」や「読み取り図」を活用した。
- ②児童に、自分のノートに「学習計画表」を貼らせ、毎時間の活動を振り返らせるとともに、本単元の中での単位時間の位置付けを確認させた。
- ③本単元で、読み取りをする単位時間(5回)の「展開段階の流れ」を統一して以下の形で繰り返し行った。



【展開段階の流れ】

八・七	六	五	四	三	二	一	読み取り	振り返り
○人物の心情の変化について自分の感想を伝え合う。	○物語を通して、クルルの心情を読み取る。 ・登場人物の心情を読み取る。	○第四場面のクルルとカララの関係を図にまとめる。 ・登場人物の心情を読み取る。	○第三場面のクルルとカララの関係を図にまとめる。 ・登場人物の心情を読み取る。	○第二・三場面のクルルとカララの関係を図にまとめる。 ・登場人物の心情を読み取る。	○第一・二場面のクルルとカララの関係を図にまとめる。 ・登場人物の心情を読み取る。	○物語の感想文を書く。 ・場面構成を確かめる。 ○新出漢字	○物語の感想文を書く。 ・場面構成を確かめる。	○物語の感想文を書く。 ・場面構成を確かめる。

【学習計画表】

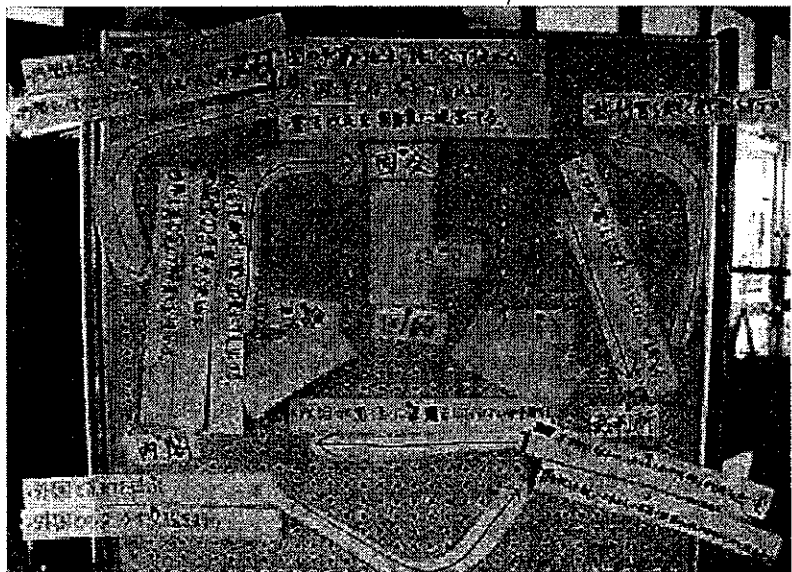
実践例②

- (1) 教科(学年) 社会科(第6学年)
- (2) 単元名 国の政治のしくみ
- (3) 本時の目標 国会・内閣・裁判所の関係を理解する。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

- ①毎時間の導入段階で、教科書を基に進め方を示して見通しを持たせるとともに、単元目標に向けた本時の扱いを確認する。さらに、その導入段階の時間に、前時の復習時間を確保して、既習内容の確認を行った。

- ②終末段階に、「国会」「内閣」「裁判所」の三権分立の関係をノートにまとめさせるだけでなく、廊下掲示に仕上げる目的意識を持たせて取り組ませた。

(その後、廊下に常設し、項目を移動させて確かめられるようにした。)



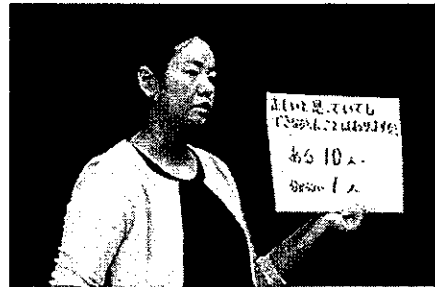
【「三権分立」の廊下掲示】

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 道徳(3年)
- (2) 主題名 正しい心, 強い心
- (3) 本時の目標 葛藤する登場人物の気持ちを想像することを通して, 正しいと思うことは, ためらわずに自信をもって行おうとする道徳的心情を育てる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし, 児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

①事前アンケートの結果を, 導入で活用した。「今まで, 正しいと思っていてもできなかったことはありますか。」の問いに, 11名中10名が「ある」と答えた結果を画用紙に書いて提示し, その具体的場面を振り返らせることによって, 本時の道徳的価値を自分事として考えられるようにした。



②「正しいと思ったことができなかったのは, どうしてですか。」と発問し, その時の自分の気持ちを思い起こさせておくことで, その後に読む教材文に登場する主人公の葛藤を, 共感して考えることができるようにした。

実践例②

- (1) 教科(学年) 道徳(5年)
- (2) 主題名 多くの人の支えに対して
- (3) 本時の目標 筆者の気持ちの変化に共感し考えさせることを通して, 身の回りの多くの人の様々な支援に気づき, 感謝の気持ちを主体的に表そうとする道徳的实践意欲と態度を育てる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし, 児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

①家庭学習として, 「なぜちかさんはこれまで, 『ありがとう』ということができなかったのか。」「『ありがとう』と言うよさとは何か。」という観点を与えて教材の事前読みをさせた。ノートにまとめさせておくことによって, 全員が自分の考えをもって授業に臨むことができた。これを座席表に記入しておけば, 意図的指名にも活用できる。



②導入で, 登校時のスクールバスから下車する時の様子を撮影したビデオを見せた。自分たちが, バスの運転手さんや教師にどのように挨拶しているかを振り返らせることで, 本時の道徳的価値に対する問題意識をもたせようと考えた。

提言3. 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 国語科(1年)
- (2) 題材名 「根拠を明確にして書こう 意見文」
- (3) 本時の目標 挿絵の長所と短所を挙げながら、話し合いを通して説得力のある根拠を考
えることができる。
- (4) 授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間の設定

単元を通した学習計画表を作成した。作成した学習計画表では、振り返りを文章で記入し、授業の中で自分の考えがどのように変容したのかを客観的に見つめられるように工夫した。また、家庭学習で行う学習内容も記載していることから、次時への見通しや、授業と家庭学習のサイクル化を図ることができた。

『根拠を明確にして書こう 意見文』

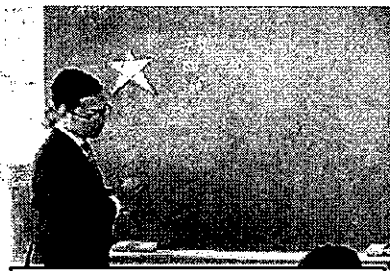
単元目標
 ◆説得力のある挿絵を考え、根拠を明確にして自分の意見を書こう。
 ◆書いた文章を互いに読み合い、挿絵の適切さや説得力などを確かめ合おう。

日付	学習目標	到達目標	授業で扱って学んだこと・考えたこと	家庭学習のポイント
1	「問題」について挿絵し、挿絵の長所を述べよう。	① (4-3-2-1)		挿絵の長所と短所を述べ、選んだ理由を文章で述べていく。
2	長所と短所を挙げながら、グループで話し合いながら他のグループより説得力のある挿絵を考えよう。	② (4-3-2-1)		自分の挿絵に合った理由があるか、再確認していく。
3	300字で意見文を書き、説得力があるか互いに確かめ合おう。	③ (4-3-2-1)		新聞記事の長所を挿絵して書く。
4	これまでの学習で、新聞記事に入りたい挿絵について、200字で意見文を書こう。	④ (4-3-2-1)		自分の意見文に合った理由があるか、再確認していく。
5	書いた意見文を読み合い、根拠が明確に書かれているか、説得力があるかを確かめ合おう。	⑤ (4-3-2-1)		

実践例②

- (1) 教科(学年) 数学科(2年)
- (2) 単元名 平行と合同(角の和を求める)
- (3) 本時の目標

星形五角形の5つの角の和が 180° になることを、既習事項を使って説明できる。



操作活動前の課題の提示

- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
操作活動を行わせて、5つの角の和が 180° になることを体験的に確認させた。

課題提示の際に、実際に自分自身が思い描く、星形五角形を自由に紙にかかせた。生徒一人一人が異なった大きさの星形五角形を作成し、操作活動を行うことで、体験を伴った理解を感じることができ、課題を明確に捉えることにつながったと考える。また、友人との比較からどのような星形五角形でも同じ条件が成り立つことから、学習課題への意欲を高めることができた。



作成した図を用いた操作活動

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置づけること

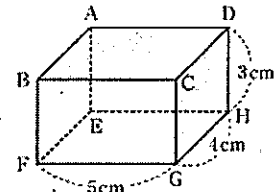
実践例①

- (1) 教科(学年) 数学(3年)
 (2) 単元名 三平方の定理
 (3) 本時の目標 三平方の定理を利用して、問題を解決することができる
 (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童・生徒に見通しを持たせるための学習課題の設定

- ① 右の学習課題を提示し、課題解決の見通しを持たせるために、直方体をティッシュボックスに見立てて、どのように糸をかけたらよいかを生徒に考えさせる。
 ② 4人グループで、実際に糸をかけさせながら予想を立てさせる。
 ③ 糸の様子を調べるために、展開図を活用することに気付かせる。
 ④ 生徒の予想をいくつか抽出し、三平方の定理を利用して、長さを求めさせ、予想があっていたかを確認させる。
 ⑤ 適用問題に取り組ませる。

〔学習課題〕

右の図の直方体の表面に点Bから点Hまで、どのように糸をかければ、その長さもっとも短くなりますか？



- (5) 授業を終えて
 ・数学の苦手な生徒も最短の糸のかけ方を考えることに抵抗を感じることなく、取り組んでいる様子であった。予想したことが合っているかどうかをゴールとすることで、興味を持って取り組んでいた生徒が多かった。

実践例②

- (1) 教科(学年) 社会(2年生)
 (2) 単元名 ヨーロッパ人との出会いと全国統一(7時間扱い)
 (3) 単元の目標 ヨーロッパ人の来航を、ヨーロッパ社会の変化と関連付けて理解させ、鉄砲とキリスト教の伝来、南蛮貿易が日本に与えた理由を考えさせる。

- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童・生徒に見通しを持たせるための学習課題の設定

- ① 単元を貫く学習課題「戦国時代に、鉄砲とキリスト教が伝わったのはなぜだろう～ヨーロッパ人との出会いとその影響～」を設定し、単元全体の学習に見通しを持たせるとともに、単元のまとめとして、学習した内容を振り返り、レポート形式にしてまとめることを伝える。
 ② 教科書やノートなどを活用しながらまとめさせることで、学習内容を振り返らせる。
 ③ レポート作成の条件及び評価規準(ABC)を明確にする。

〔条件〕

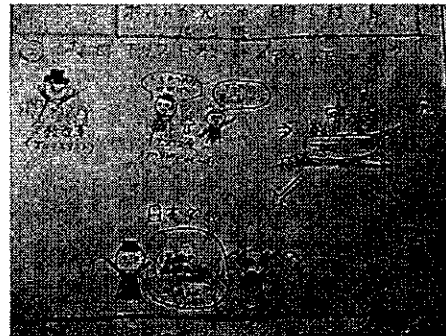
- ① 略年表を必ず入れること。
 ② 自分なりの考察や意見、感想を入れること。

〔留意点〕

- ・伝わった理由、変化したこと、受けた影響などをイラストや表、地図、説明文などを用いてまとめる。
 ・レイアウトを工夫する。

〔評価の観点〕(①思考・判断・表現、②資料活用の技能)

- ① 課題をふまえ、適切な内容を選択して表現している。
 ② 資料を適切に活用し、略年表や地図などに書いてまとめている。



- (5) 授業を終えて
 ・歴史的な事象を断片的に捉えてしまう傾向が見られていたが、活動を通して世界とのつながりや関連性などに目を向け、歴史的な事象を多面的・多角的に見ようとする意識が育ってきた。
 ・レポートの作成の条件及び評価規準を明確にしておいたので、取組が進まない生徒への指導・支援を具体的にを行うことができた。

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

資料として活用したちらし



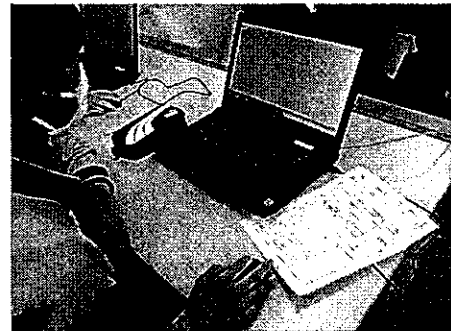
- (1) 教科(学年) 社会(3学年)
- (2) 単元名 身近なところから現代社会を見てみよう
- (3) 本時の目標
身近なところから現代社会におけるグローバル化、情報化、少子高齢化に気づき、関心を持つことができる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

生徒が驚き、「知りたい」「調べてみたい」と思うような課題の提示

- ①スーパーマーケットの写真や「ちらし」などの資料から、「グローバル化」「少子高齢化」「情報化」を読み取る。
- ②他者に分かりやすく根拠を持って説明する。
- ③生徒の驚きやつぶやきを拾い上げ、「見つけた」という満足感を感じさせたり、「知りたい」という意欲につなげる。

実践例②

- (1) 教科(学年) 技術(1学年)
- (2) 単元名 情報の整理と入力
- (3) 本時の目標
情報通信ネットワークの構成・伝達方法を確認し、必要な情報を整理し、コンピュータ操作の入力や情報データの加工ができる。
- (4) 授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間の設定



授業の様子

ねらいと振り返りを直結させる学習過程の工夫

- ①授業の課題の一つとして、日付け、授業のめあて、感想(振り返り)を項目にした自己評価カードを生徒自身が作成する。
- ②自分で作成した自己評価カードに、毎時間の授業のめあてや振り返りを入力する。

日付	時数	めあて	感想
10月	1	PCの使い方を知る。	今日の授業は、楽しかった。
11/10(金)	2 3	PCの使い方がなれる。自己評価表を作ることができる	今日は作業が難しく、大変だったが、楽しかった。
11/17(金)	4	のこぎり引きをする	のこぎり引きをやった。意外と上手くできた
12/1(金)	5	寸法取りをする	寸法取りをやったが、よく分からなかった。でも、しっかり作れるように頑張りたい
12/15(金)	6	切断する	寸法取りが終わって、切断に入った
12/19(金)	7		切断はものすごく疲れたが、しっかりできた
12/22(金)	8	材料加工する	まだ、形を整えていない材料もあるが、1つ1つしっかりやっていたい
1/12(金)	9	組み立てをする	少し不安だったが、組み立てに入れた

生徒作成・入力の自己評価カード

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

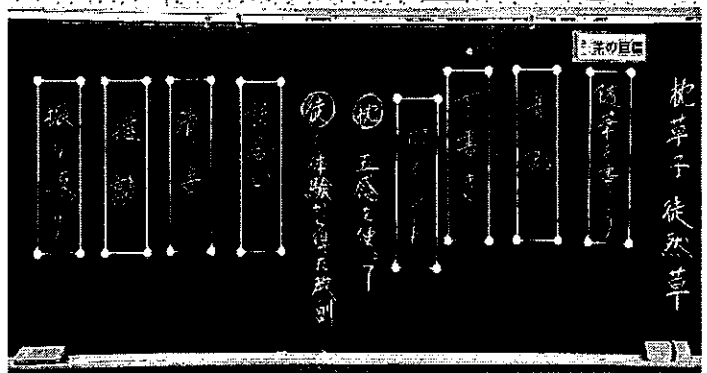
- (1) 教科・学年 英語 (1 学年)
- (2) 単元名 「Unit 6 オーストラリアの兄」
- (3) 本時の目標 「人物当てクイズ」を通して尋ね合うことができる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ①授業のねらいを板書で示すとともに、ねらいを達成した姿として教師によるモデルを提示する。
 - ②単元のねらい、一単位時間ごとの授業のねらいをまとめて記載した「自己評価カルテ」を、単元の始めに生徒に配布する。(写真参照)
 - ③授業の終末に、授業への意欲と取組の結果を自己評価させるとともに、授業感想を書く時間を位置付ける。また、授業で身に付けさせたい技能に合わせ、英作文を書かせたり、リスニングテストを行ったりして、授業の達成度を測る。

Unit 6の単元目標
お気に入りの人物について相手に伝えたり、第三者について尋ね合うことができる。

授業の目標	単元のねらい	単元	単元	単元	単元
1 「三楽壇のい」を使って、お気に入りの人物について紹介しよう。	紹介したい「お気に入りの人物」について準備しておく。	英語	英語	英語	英語
2 人物紹介スピーチで伝える表現を学ぶ。	人物紹介の表現を、準備しておく。	英語	英語	英語	英語
3 「三楽壇のい」を使って、お気に入りの人物について尋ね合う。	「お気に入りの人物」について、質問・尋ね合いの準備しておく。	英語	英語	英語	英語
4 「人物当てクイズ」をしよう。	Question Cardの作りかたについて、英文を準備しておく。	英語	英語	英語	英語
5 人物紹介スピーチの表現で伝える表現を学ぶ。	人物紹介の表現を、準備しておく。	英語	英語	英語	英語
6 「お気に入りの人物」について詳しく紹介しよう。	お気に入りの人物について詳しく紹介しておく。	英語	英語	英語	英語
7 人物紹介スピーチ発表会をしよう。	スピーチの練習をしておく。	英語	英語	英語	英語

実践例②

- (1) 教科 (学年) 国語 (2 学年)
- (2) 単元名 「枕草子・徒然草」
- (3) 本時の目標 本文を参考に、随筆を書くことができる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ①本時の目標とともに、題材を貫く課題である「随筆集をつくろう」を明示し、目的意識を持たせることで、興味・関心を喚起する。
 - ②授業の流れを黒板に示すことで、見通しをもって学習に臨めるようにする。
(写真参照)
 - ③それぞれが書いた随筆の内容についてグループで検討し、生徒が互いにアドバイスをし合うことで、自信を持たせる。
 - ④終末に振り返りの時間を確保し、自己評価を行わせるとともに、次時の目標を立てさせ意欲喚起につなげる。



提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 英語(1年)
- (2) 単元名 Unit 10
- (3) 単元の目標 ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

①単元毎に『CAN-DOカード』を作成し、毎時間の振り返りと自己評価を記入させる。

②毎時間の目標や家での課題を提示することにより、見通しをもって授業や家庭学習に取り組ませる。

Unit 10 ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる			見直し	
単元	単元目標	見直し	単元	単元
1	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	A B C D	A B C D
2	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	A B C D	A B C D
3	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	A B C D	A B C D
4	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	A B C D	A B C D
5	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	A B C D	A B C D
6	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	A B C D	A B C D
7	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	A B C D	A B C D
8	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	A B C D	A B C D
9	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	A B C D	A B C D
10	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	ALTへのインタビューを聞いて、できることとできないことをききとる。	A B C D	A B C D

実践例②

- (1) 教科(学年) 音楽(3年)
- (2) 題材名 日本の伝統音楽に親しもう ～箏の演奏を通して～
- (3) 本時の目標 箏独特の奏法を習得して、「さくらさくら」の後奏を創作する。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

①黒板等にあらかじめ学習の流れなどを提示し、目標や時間の意識して活動できるようにする。

②1年時の既習曲「さくらさくら」が編曲された「さくらさくら変奏曲」を題材の導入で鑑賞することにより、創作や演奏への意欲をもたせる。

今日の目標

「さくらさくら」をレベルアップさせよう。
～後奏(さくら)の創作～

今日の流れ

- ・「さくらさくら」復習
- ↓
- ・箏独特の奏法を知る
- ↓
- ・後奏の創作
- ↓
- ・発表

スクル	押し合	ひら爪
合せ爪	流し爪	引手連
ヒモ口	裏連	

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

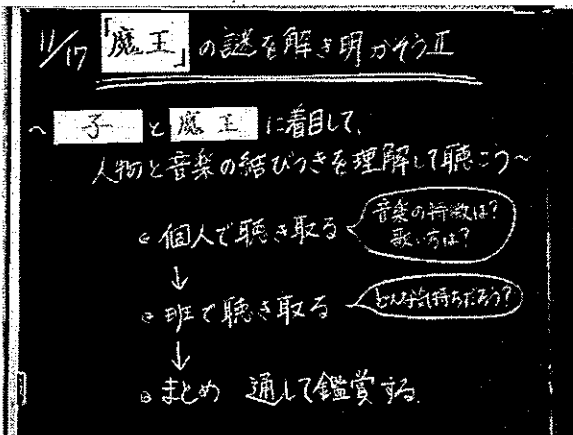
- (1) 教科 (学年) 英語 (1年)
- (2) 単元名 Unit 5 学校の文化祭 Part 3 朝食は何かをたずねよう
- (3) 本時の目標 疑問詞 What を用いた疑問文に応答したり、書いたりすることができる。
- (4) 授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間の設定
 - ① 会話によるアクティビティやペアでスキットを作る課題で、疑問文について理解させたくて、適用問題に取り組ませる。
 - ② 適用問題の内容や出題方法については、空所補充や学習プリントを活用しながら取り組める英作文等を工夫し、次時への意欲につなげられるようにする。
 - ③ 本時の目標 (Dream Goal) に対する自己目標 (My Trial) を設定させ、その達成度合いを日本語の文章で書かせることで、自己の学びを確認させる。
 - ④ 学習プリントに疑問点を書く欄を設け、適用問題と合わせて生徒の理解度を確認し、評価や指導に生かす。

Dream Goal	活動を通して、what が使えるようになる。 今まで習った単語の復習をする。
My Trial	what が使えるようになる、答える文も使えるようになる

【自己評価】 A (B) C	《授業で見えたこと、わかる・できるようになったこと》 is + are で聞かれたときの返し方が理解できた。
-------------------	---

実践例②

- (1) 教科 (学年) 音楽 (1年)
- (2) 題材名 詩の内容と曲想とのかかわりを感じ取ろう (教材「魔王」)
- (3) 本時の目標 諸要素と曲想とのかかわりに関心を持ち、音楽の変化と心情の変化が結び付いていることを感じ取って言葉で説明することができる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ① 1回目の鑑賞で感じた謎 (恐怖感がある、物語性を感じる等) を解き明かしていくという課題提示により、生徒の意欲を引き出す。
 - ② 黒板とワークシートを用いて、着目する登場人物 (子と魔王) と要素 (音色、旋律、強弱) を明示することで、本時で何を聴き取ればよいかしっかりとつかませる。
 - ③ 個人の知覚をもとに班活動で感受へと広げることを予め示し、授業の見通しを持たせる。
 - ④ 本時のゴールを目指して学習活動に取り組めるようにするために、振り返りでは「人物と音楽の結び付きへの理解をもとに、曲を通して鑑賞する」ことを予告して授業を展開する。



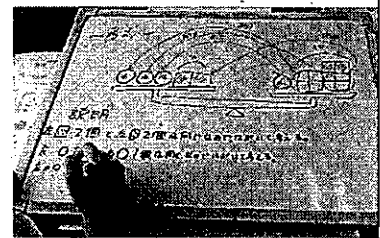
提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 数学(1年)
- (2) 単元名 「方程式」 小単元名「等式から求めてみよう」
- (3) 本時の目標

てんびんの問題を式や図を用いて考え、求めることができる。

- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ①導入でフラッシュ型教材を活用し、多くの生徒に発言させながら課題を確認する。タブレットとテレビ画面を使うことで、生徒の課題への意欲や関心を高める。
 - ②本時の問題となるてんびんの図と同様の図をテレビで表示することで、課題をイメージしやすくする。
 - ③ホワイトボードを活用し、グループの考えを整理して書かせる。それによって課題解決の見通しを立たせるとともに、考えの共有化も図る。
 - ④グループごとに話し合った後、どのような考えが出たのかタブレットを使ってテレビ画面に表示し、説明させる。それによって、視覚的に他の生徒が理解しやすいようにする。



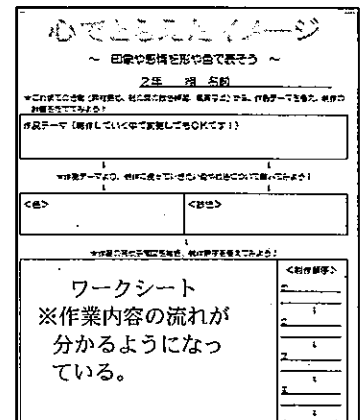
※考えと説明を整理して書かせる。

実践例②

- (1) 教科(学年) 美術科(2年)
- (2) 単元名 「心でとらえたイメージ～私の心の中から生まれる色や形～」
小単元名 「彩色4」
- (3) 本時の目標

制作テーマからデザインのイメージを広げ、配色や技法、制作順序を工夫しながら彩色を進めることができる。

- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ①授業の導入で様々な抽象作品を鑑賞する時間を設ける。それによって、いろいろなデザインがあることを知らせ、自分のイメージ作りに役立たせる。
 - ②黒板に今日の目標を提示する。校内研究のルールで、全教科黄色のチョークで囲むことに統一しているので分かりやすくなる。
 - ③今日の目標の下に、1時間の流れを簡潔に示す。現在どの段階かその都度確認し、生徒が作業に迷わないようにする。
 - ④ワークシートは、鑑賞、テーマ設定、色や技法の選択、最後に完成図というように順序立てて作業に取り組めるよう工夫してある。
 - ⑤実物投影機とテレビを活用し、個人の作品や作業状態を全員に共有する。それによって作業の進んでいない生徒は、どのように進めればよいか見通しを持つことができる。

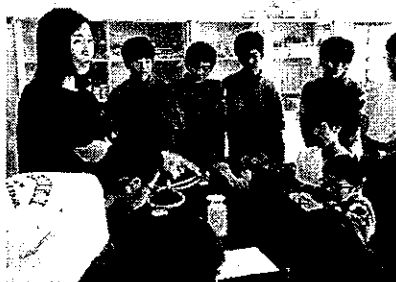


提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 理科(2年)
- (2) 単元名 化学変化と原子・分子「第3章 酸素がかかわる化学変化」
- (3) 本時の目標
 - ・二酸化炭素中でマグネシウムが燃焼する化学変化を、言葉とモデルを用いた図で説明することができる。
 - ・酸化と還元について基本的な概念を理解し、知識を身に付けることができる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

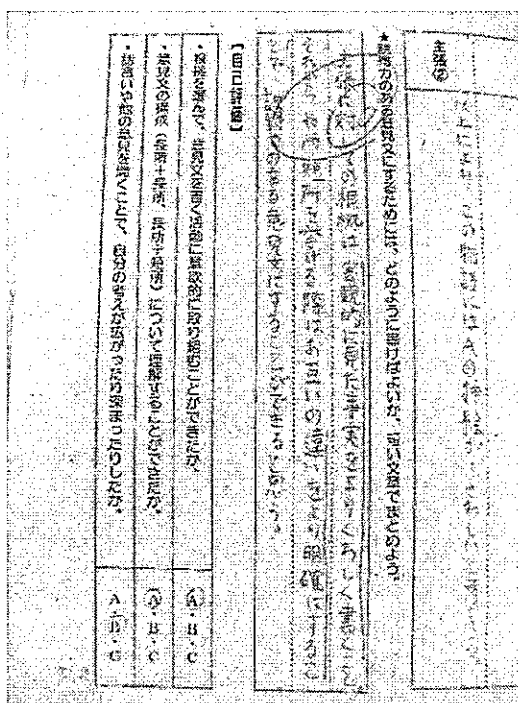
本時はこの章のまとめの授業であるので、酸化と還元 of 学習を関連付けて考える学習課題にした。導入時に二酸化炭素中でマグネシウムリボンを燃やす演示実験をすることで、生徒は酸素がないところで物が燃える現象に驚き、疑問が生じる。「どうしてだろう」や「不思議だ」という生徒の発言から本時の学習課題を設定することで、生徒は課題をつかんでいた。また、本時の流れをホワイトボードとワークシートに提示し、確認することで見通しを持ってこの後の活動に取り組んでいた。



実践例②

- (1) 教科(学年) 国語(1年)
- (2) 単元名 根拠を明確にして書こう
- (3) 本時の目標
 - ・学習課題に関心を持ち、意欲的に書こうとしている。
 - ・説得力を持つような具体的な根拠を考えている。
- (4) 授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間の設定

本時はもちろん、単元を通して毎時間の授業の終末の場面で、学習したことについて自分の言葉で短い文章にまとめさせる活動を取り入れた。書く際の観点も明示することで、生徒は的確に自分の学習を振り返ることができ、授業評価にも生かすことができた。



提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科 (学年) 国語 (1 学年)
- (2) 単元名 伝統芸能劇の案内状を書こう
(書く「案内や報告の文章を書こう」)
- (3) 本時の目標 必要な情報を選び出し、分かりやすい構成で案内状をまとめる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ①生徒が参加する唐桑伝統芸能劇の案内状を書くことを単元の学習課題(学習のゴール)として設定した。生徒にとって、実生活に即した学習課題を設定することで、学習に対する有用感が持てるようにした。
 - ②伝統芸能劇の公演日前に案内状を完成させる(学習のゴール)ことを見通して、案内状に必要な情報を収集する方法(学習の道り)について単位時間毎の計画を立てさせた。
 - ③作成した案内状は実際に職員に配付して活用したことで、「学びの成果」を実感させた。

2017年 12月14日

唐桑中学校 職員の皆様

唐桑中学校
郷土芸能劇 唐桑ものがたり
のお知らせ

今年も残りわずかとなりました。皆様が大は
どうお過ごしでしょうか。
さて、今年行われている郷土芸能劇唐桑ものがたり
は今年で5回目を迎えました。今年のお題は
和歌山で公演し大成功を収めました。
来年は東京公演をひかえています。
唐桑と熊野(和歌山)の歴史をつないで物語を下記の
通りに開催します。ぜひ来場ください。資料お渡しははじ
め。

1. 日時 12月17日(日) PM 14:00開演 (13:30開場)

2. 場所 気仙沼市民会館大ホール 入場無料

3. 出演団体
劇団 夢の虎 / 理髪大津浪津浪会 / 唐桑大津浪津浪会
社より七福神舞隊会 / 唐桑音楽会 / 唐桑中学校(協賛)

実践例②

- (1) 教科 (学年) 保健体育 (3 学年女子)
- (2) 単元名 器械体操 (マット運動)
- (3) 本時の目標 演技構成した技の組み合わせを発表し、お互いの演技を評価する。
- (4) 授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間の設定
 - ①授業開始時に毎時間、課題設定を行わせ、ワークシートに記載させる。
 - ②技のポイントをまとめたプリントを掲示したり、グループに配布したりして、常に生徒間でアドバイスを行えるようにした。
 - ③友だちの演技や自分の演技を評価するための基準を示し、相互に評価させた。また、授業開始時に設定した自己の課題に対する感想を書く時間を授業の終末に設定した。課題解決や技の習得の過程を積み重ねていくことで、(できるようになった!) など、「学びの成果」を生徒一人一人に実感させることができた。

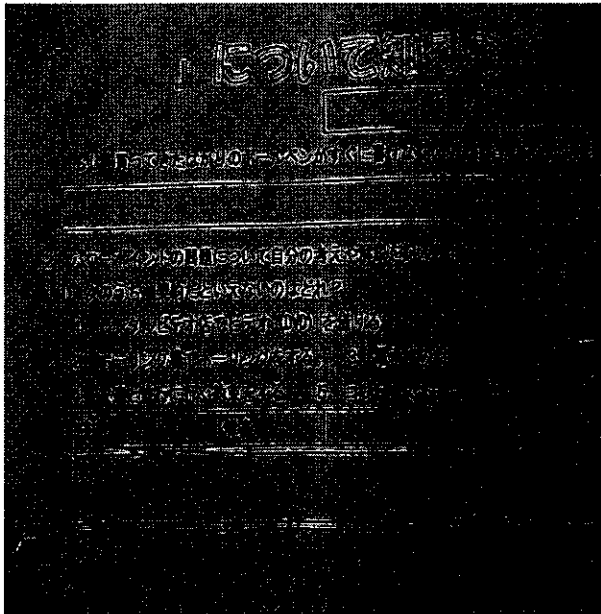
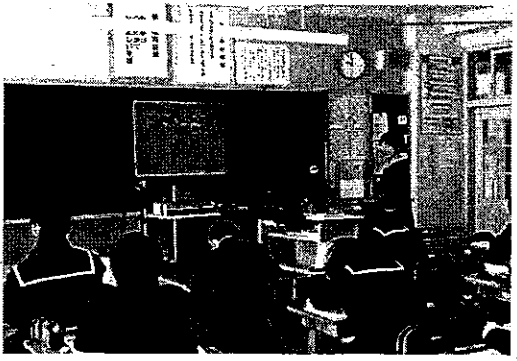
4	いらいん、おしんが、大 きくし、おしんが、大 きくし、おしんが、大 きくし、おしんが、大	3: わさの形はできているが保護が みられる ・技の流れがスムーズではない 4: 流れや技の形はまあまあできて いる 5: 技の流れがスムーズで1つ1 つの技が完璧である
4	いらいん、おしんが、大 きくし、おしんが、大 きくし、おしんが、大	<p style="text-align: center;">感想</p> <p>最初は緊張してできなかったけど、 友達や先生にアドバイスをもらって 練習を繰り返してできるようになった。 できるようになったから、マット運動 が楽しく思えるようになった。 大会ではバックスか上手くてでき てうれしくていいけど、成長を 実感した。</p>
5	いらいん、おしんが、大 きくし、おしんが、大 きくし、おしんが、大	
4	いらいん、おしんが、大 きくし、おしんが、大 きくし、おしんが、大	
3	いらいん、おしんが、大 きくし、おしんが、大 きくし、おしんが、大	
5	いらいん、おしんが、大 きくし、おしんが、大 きくし、おしんが、大	

11/2 (木)	目標	倒立前転をする!!	自己評価項目 (できた○ もう少し△ できなかった×)
きれいに演技したい技	→	倒立前転	意欲的に活動できた 0
挑戦したい技	→	倒立転	仲間と教え合い協力できた 0
			練習方法を見つけることができた 0
			安全に気を付けてかつどうできた 0
★仲間からもらったアドバイス★ ()さんから			★本時の感想★
倒立前転は、足らずな練習。そして、倒立前転の 技から、ゆくりある、頭を引き、前転する。 一連の流れを覚えてほしい!!			倒立前転で、こぼれちゃったけど、 失敗した分、やる気満々です。自分も味 あかなければ、できないから、頑張ります!!

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科 技術・家庭科（家庭分野）（1学年）
- (2) 単元名
D身近な消費生活と環境
よりよい消費生活のために
「契約について知ろう」
- (3) 本時の目標
 - ・契約について理解する。
 - ・消費生活のトラブルを理解し、その予防方法、対処方法について知る。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定



- ① 「〇〇について知ろう」というように、本時の目標が記入されていないワークシートを配布する。
- ② 「もし、買ってきたばかりのボールペンがすぐに書けなくなりました。あなたならどうしますか？」という質問に対して、実際に行う行動を正直に答えさせる。（→終末で、消費者として批判的な意識を持つことが商品の問題点の発見につながり、店側にとっても良いことであると確認する。）
- ③ 「契約」についての問題を解き、自分の考えを発表する。
- ③ 第1問について自分の考えを発表させた後、解説する。
- ④ 「契約」についての説明を見て、本時の課題に気付かせ、本時の目標「〇〇について知ろう」の〇〇の部分に入る言葉が「契約」であることを生徒によって導き出させる。

実践例②

- (1) 教科 国語（1学年）
- (2) 単元名 「矛盾」
- (3) 本時の目標
他の故事成語の由来や意味を知り、それに当てはまる体験や出来事を文章や絵でまとめ、表現することができる。
- (4) 授業の終末に適用問題やテスト、授業の感想を書く時間の設定
まとめたものを学級全体で見比べ合い、感想を書かせた。また、感想を書かせるだけでなく、投票を行うことで、自分たちでより優れた作品を選び、鑑賞することにつなげた。また、他学級の作品も鑑賞させることで故事成語に関する理解が深まった。



提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 音楽(1年)
- (2) 単元名 曲の構成を感じとって歌おう
- (3) 本時の目標 曲の構成と歌詞の内容を感じとって表現の工夫をしよう。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ①「今日の学習」として、本時の課題(ゴール)を板書し、意識して課題に取り組ませる。
 - ②本時の学習の流れと時間配分を提示し、内容と時間の見通しを持たせる。



実践例②

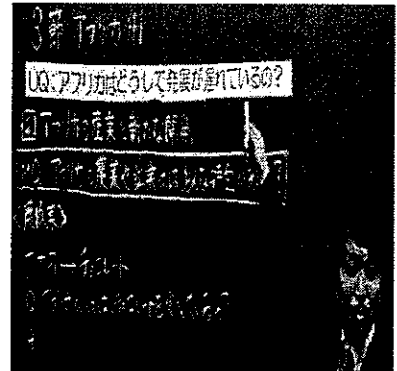
- (1) 教科(学年) 数学(3年)
- (2) 単元名 相似な図形
- (3) 本時の目標 相似な図形の相似比と面積比の関係について理解し、その関係を利用して図形の面積を求めることができる。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - 身近な疑問を課題に取り入れて学習意欲を引き出すとともに、課題を解決する必然性を持たせる。
 - ・ A4サイズのポスター原画をコピー機で相似比2倍に拡大したものを提示し、面積比と相似比は同じではないことを示す。
 - ・ 相似比と面積比の関係が分かれば、A4サイズのポスターをA3サイズに拡大することができることを確認する。
 - ・ 相似比と面積比にはどのような関係があるのか考えさせる。

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

- (1) 教科(学年) 社会(1年)
- (2) 単元名 世界の古代文明と宗教のおこり
- (3) 本時の目標 古代文明に関する地域的な特徴を理解する
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

- ①単元のはじめに単元をつらぬく学習課題(ユニットクエスチョン)を提示し、学習の見通しを持たせた。
- ②授業ごとに本時の学習課題(メインクエスチョン)を提示した。また、授業の終末にその課題に対する記述問題(クエスチョンシート)に取り組みさせた。その上、その結果を成績だけではなく次の単元の授業づくりに生かした。
- ③毎時間の授業で取り組んだ記述問題(クエスチョンシート)の結果をを集計させ、単元をつらぬく学習課題(ユニットクエスチョン)に取り組みさせた。

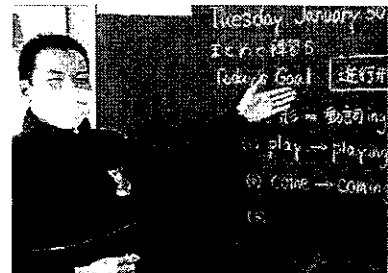


ユニットクエスチョン

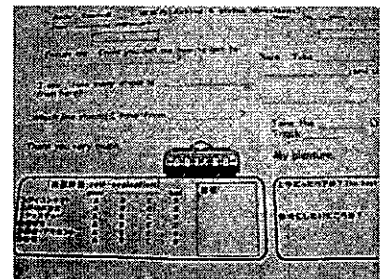
実践例②

- (1) 教科(学年) 英語(3年)
- (2) 単元名 Daily Scene4 道案内
- (3) 本時の目標 乗り換えのある乗り物での行き方を尋ねたり、教えたりしようとしている。
- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定

- ①授業ごとに本時の学習のゴール(Today's Goal)を提示し、理解すべき学習内容を意識させた。
- ②英語を苦手と感じている生徒も意欲的に授業に取り組めるよう、ピクチャーカードや大画面での映像を併用し、本時の学習内容を画像でも認識できるようにした。
- ③授業ごとに書く感想シートを工夫した。
 - ・授業ごとに確実に振り返りができるよう、ワークシートの下部に感想を書くスペースを準備した。
 - ・自己評価も簡単に同時にできるように、いくつかの観点を提示し、それをA~Dで評価できるようにした。



Today's Goal

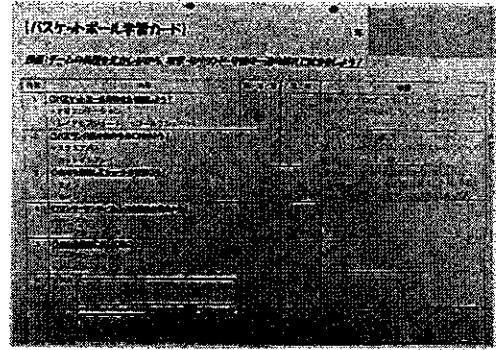


振り返りシート

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間を位置付けること

実践例①

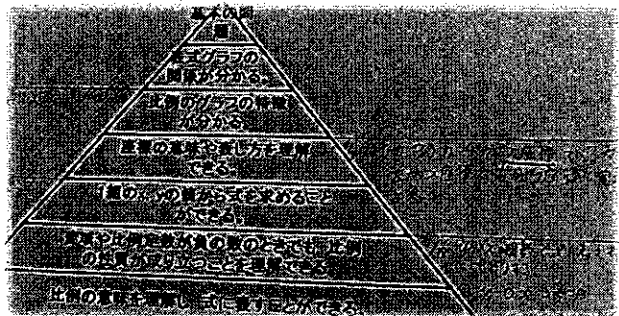
- (1) 教科(学年) 保健体育(3学年)
- (2) 単元名 バスケットボール
- (3) 本時の目標
 - ①2メンの動きを身に付け、実践することができる。 【技能】
 - ②パスの利点を理解することができる。 【知識・理解】



- (4) 単位時間のねらいを明確にし、児童生徒に授業の見通しを持たせるための学習課題の設定
 - ①単元毎のオリエンテーションの際に、学習カードを配布し、全体の見通しと毎時間毎の目標及び実践課題を示し、見通しを持たせた。そうしたことで、全体の見通しと本時の課題、次時の課題を把握し、意欲を高めさせることにも役立てることができた。
 - ②本時の授業の見通しを持たせるため、ホワイトボードに流れを示し、生徒が課題と実践内容を把握できるようにする。そうしたことで、視覚的にも流れと課題が分かり、スムーズに課題に取り組むことができた。

実践例②

- (1) 教科(学年) 数学(1年)
- (2) 単元名 空間図形(投影図)
- (3) 本時の目標
 - ①投影図の意味を理解し、かくことができる。 【知識・理解】
 - ②投影図から立体を読み取ることができる。 【見方・考え方】



- (4) 授業の終末に適用問題や小テスト、授業の感想を書く時間の設定
 - ①授業の終末に小テストを実施した。教師用指導書 問題・解答編にある小テストを活用した。裏面に解答と解説を印刷したプリントを用意した。小テストの解答欄が右側にあるため、裏面の解答は自己採点しやすいよう右側に寄せて印刷した。小テストによって問題数や難易度も異なるため、時間配分を変えながら実施した。小テストに取り組ませた後、裏面の解答を見ながら自己採点を行う。小テストに取り組ませている際に机間指導を行い、特に全体で確認しておくべき事に焦点を絞り、自己採点後に解説をした。
 - ②小テスト後に、レベルアップカードに本時の振り返りを記入させた。レベルアップカードとは、一単元の流れに沿って、単位時間のねらいをピラミッド状に示したものである。授業の終末にキーワードを与え、そのキーワードを用いて本時の振り返りを記入させた。時折数学係や生徒たちに本時のキーワードを考えさせることで、本時のポイントがどこかを確認することにつながった。的を射るような振り返りばかりではないが、数名分の振り返りをiPadで撮影し、次時の導入時にテレビに示すことで、少しでも振り返りの内容が深まるように工夫した。

学力向上に向けた
5つの提

理解 継続 自校化

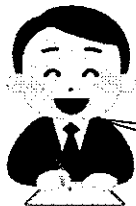
宮城県教育委員会

平成29年10月

「学力向上に向けた5つの提言」は、宮城県の喫緊の課題である学力向上を図るために、精神科医、大学教授、市町村教育委員会教育長、PTA代表、小・中学校教員等を委員とした緊急会議を開催し、平成25年10月16日に提言として、全ての教員が実践化に努めていく内容をまとめたものです。

これまでの取組、そして今後の取組について、一人一人立ち止まって考えてみましょう。

「学力向上に向けた5つの提言」を 子供たちはどのように受け止めているのでしょうか？



宮城県児童生徒学習意識等調査の結果を活用して、皆さんの学校の様子と自分自身の取組を振り返ってみましょう。そこから子供たちの「5つの提言」の受け止め方を確認してみましょう。

平成29年度の児童生徒学習意識等調査の「A：当てはまる、B：どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の合計の割合（％）と、同調査の学校質問紙調査の「A：当てはまる、B：どちらかといえば当てはまる」と回答した学校の合計の割合（％）を確認してみましょう。

また、自分の取組についても振り返り、「A：当てはまる、B：どちらかといえば当てはまる、C：どちらかといえば当てはまらない、D：当てはまらない」の範囲で評価してみましょう。

○提言1 声を掛けてもらっている？ 話を聞いてもらっている？

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1 先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか。			
2 先生はあなたの話を聞いてくれますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1 児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましましたか。			
2 児童生徒一人一人の声に耳を傾け、話をよく聴きましたか。			

○提言2 ほめてもらっている？ 認めてもらっている？

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1 先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1 学校生活の中で、児童生徒一人一人の良い点や可能性を見付け、伝えるなど積極的に評価しましたか。			

**○提言3 授業のねらいが明確だと感じている？
授業のまとめができていると感じている？**

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1 授業のはじめに先生から目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか。			
2 授業のおわりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1 児童生徒に対して、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか。			
2 児童生徒に対して、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか。			

○提言4 ノートに考えを書いている？

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1 授業で、自分の考えをノートに書くようにしていますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1 児童生徒に対して、ノートのとり方（ワークシートやプリント類を除く）を指導しましたか。			
2 児童生徒に対して、自分の調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか。			

○提言5 家庭学習をしている？

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1 家で、学校の宿題をしていますか。			
2 家で、学校の授業の復習をしていますか。			
3 家で、学校の授業の予習をしていますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。			
2 児童生徒に対して、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか。			
3 児童生徒の保護者に対して、児童生徒の家庭学習を促す働き掛けをしましたか。			

5つの提言 宮城

検索

「5つの提言」の内容の確認と
様式のダウンロードはこちら！

子供たちと先生方の意識はそろっているでしょうか？

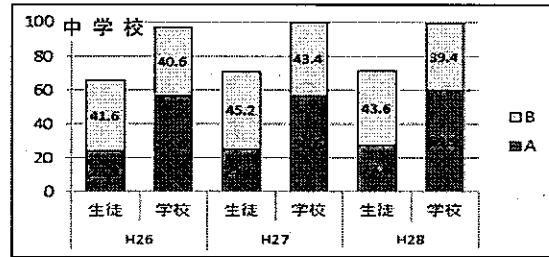
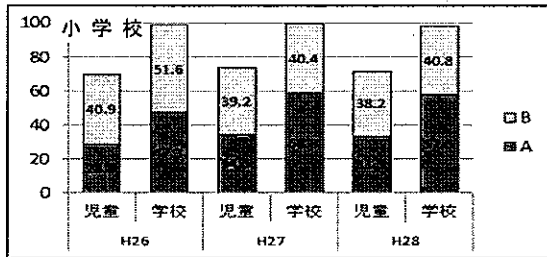


平成26年度から平成28年度まで実施した宮城県学力・学習状況調査の3年間の結果から、「5つの提言」それぞれについて、子供たちと先生方の意識のかい離について考えてみましょう。

提言 1 ○先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか ※ 上段：児童生徒質問紙
○児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましましたか ※ 下段：学校質問紙

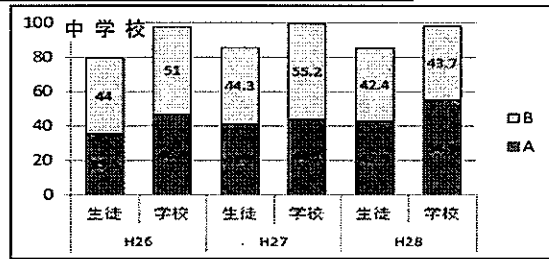
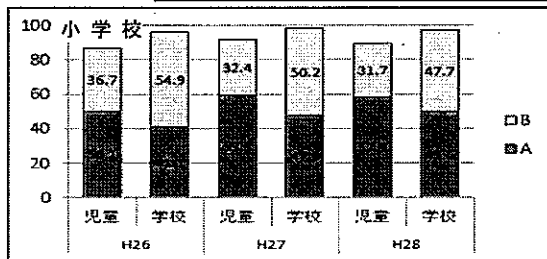
	H26			H27			H28		
	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離
小学校	69.7	98.9	-29.2	73.7	99.2	-25.5	71.7	98.4	-26.7
A+B									
中学校	65.5	97.2	-31.7	70.7	100	-29.3	71.2	99.3	-28.1
A+B									

■：A当てはまる □：Bどちらかと言えば当てはまる



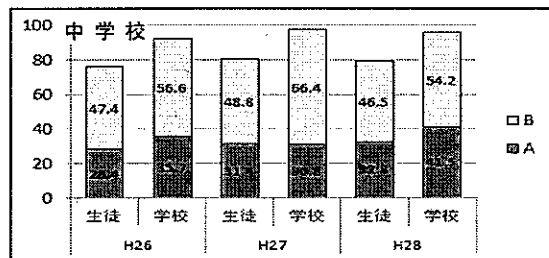
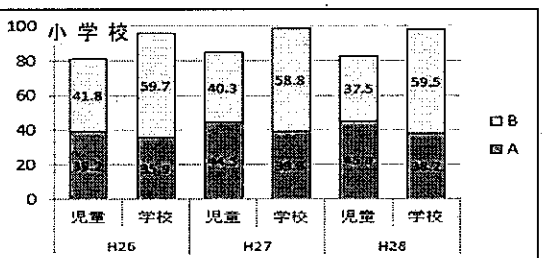
提言 1 ○先生はあなたの話を聞いてくれますか
○児童生徒一人一人の声に耳を傾け、話をよく聴きましたか

	H26			H27			H28		
	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離
小学校	86.8	96.0	-9.2	91.7	98.1	-6.4	89.6	97.3	-7.7
A+B									
中学校	79.5	97.9	-18.4	85.4	99.3	-13.9	85.3	98.6	-13.3
A+B									



提言 2 ○先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか
○学校生活の中で、児童生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ、伝えるなど積極的に評価しましたか

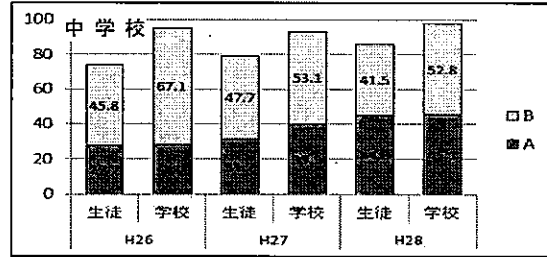
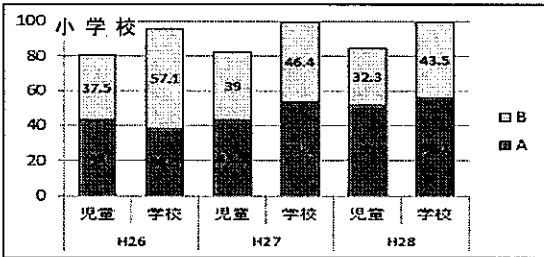
	H26			H27			H28		
	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離
小学校	81.0	95.6	-14.6	84.8	98.1	-13.3	82.8	97.7	-14.9
A+B									
中学校	75.8	92.3	-16.5	80.2	97.2	-17.0	79.3	95.7	-16.4
A+B									



提言 3

○授業のはじめに先生から目標(めあて・ねらい)が示されていると思いますか
○授業の冒頭で(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか

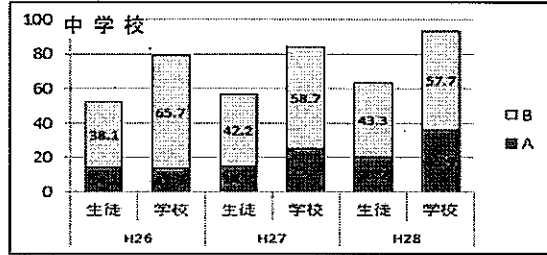
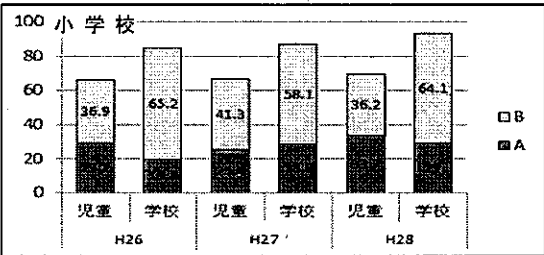
		H26			H27			H28		
小学校	児童	80.5	95.6	-15.1	82.1	99.6	-17.5	84.3	99.6	-15.3
	A+B									
中学校	生徒	73.5	95.1	-21.6	78.9	93.0	-14.1	86.3	97.9	-11.6
	A+B									



提言 3

○授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか
○授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか

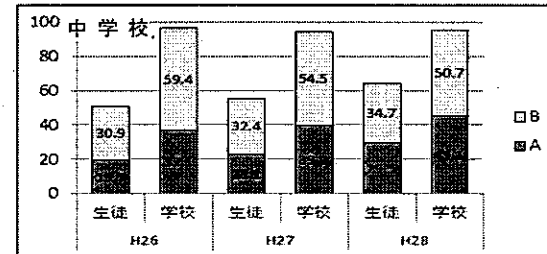
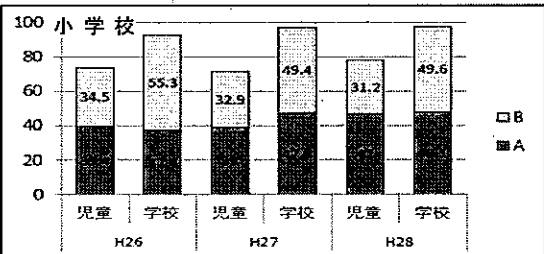
		H26			H27			H28		
小学校	児童	66.1	85.0	-18.9	66.7	86.9	-20.2	69.9	93.1	-23.2
	A+B									
中学校	生徒	52.2	79.0	-26.8	57.0	83.9	-26.9	63.5	93.6	-30.1
	A+B									



提言 4

○授業で、自分の考えをノートに書くようにしていますか
○ノートの取り方(ワークシートやプリント類を除く)を指導しましたか

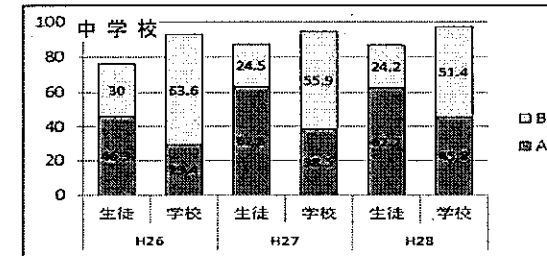
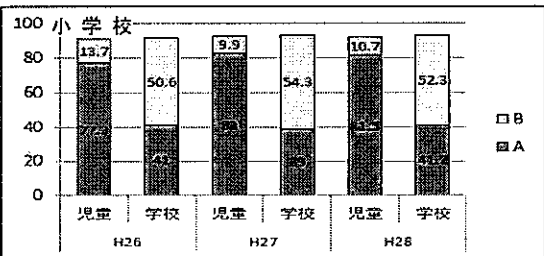
		H26			H27			H28		
小学校	児童	73.9	92.7	-18.8	71.9	97.0	-25.1	78.2	97.7	-19.5
	A+B									
中学校	生徒	50.6	96.5	-45.9	55.5	94.4	-38.9	64.2	95.8	-31.6
	A+B									



提言 5

○家で、学校の宿題をしていますか
○家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか

		H26			H27			H28		
小学校	児童	91.0	91.6	-0.6	92.9	93.3	-0.4	92.2	93.5	-1.3
	A+B									
中学校	生徒	76.3	93.0	-16.7	87.3	94.4	-7.1	86.9	97.2	-10.3
	A+B									



5 学力向上に向けた の提言 の 充実のための「3つの柱」

理解

継続

自校化

理 解

なぜ、「5つの提言」が設定されたのか。その一つ一つの意味をもう一度確認し、先生方で共通理解をした上で、実践することが大切です。

提言の意味を理解した取組は、先生方の考えや思いを児童生徒にしっかり伝えることになり、一層充実した実践へとつながります。

それぞれの提言の意味を確認しましょう

- 提言1 子供たちの心のケアや人間関係づくりのために
- 提言2 子供たちの自己肯定感と自己有用感を育み、学習への集中力を高めるために
- 提言3 1単位時間で育てる力を明確にするために。子供の学びを的確に把握し、後の指導に生かすために
- 提言4 思考力、判断力、表現力等を育てるために
- 提言5 知識や技能の定着や授業での理解を早めるために。保護者が子供に声を掛けたり、子供の努力を認めたりすることができるようにするために

次のような意味も含んでいます

- ◆提言1, 2 先生と子供たち、子供たち同士の信頼関係が学力向上及び生徒指導の基盤であること
- ◆提言3, 4 授業の基礎・基本の一つであり、どの授業でも必ず行われているべきものであること
- ◆提言5 家庭学習の充実は、授業において提言3, 4が実践されていることが前提であること

取組事例

〈小・中学校の取組〉

- 年度初めの校内研究全体会で、提言の一つ一つについて確認する場を設け、具体的な実践内容とその意味について、共通理解を図っています。
- 子供たちが1年間の振り返りを記入する「自己評価表」に、「5つの提言」に関する項目を設定し、記入させています。その結果を踏まえて、次年度の指導に生かしています。
- 「5つの提言」を学校だよりに掲載したり、学年懇談会で説明したりして、保護者にも内容を理解してもらい、協力して取り組んでいけるように努めています。

継 続

授業づくり、学級づくりの基盤とも言える「5つの提言」は、当たり前のことだからこそ、地道に、そして着実に継続することが大切です。

学校生活のあらゆる場面で継続しましょう

子供と関わる全ての先生方の目と、耳と、言葉と、全身で「子供に声を掛ける」、「子供の声に耳を傾ける」、「子供をほめる、認める」を学校生活のあらゆる場面を使って継続して実践することが大切です。その際、次の点に留意することが必要です。

- 発達の段階を踏まえ、その子供に適した声の掛け方、ほめ方をしましょう。
- 先生方で情報交換しながら、その子供のよさを見逃さずにほめ、認めましょう。
- 自分の気持ちや考えを声や行動に表すのが苦手な子供がいることを理解しましょう。全ての子供たちに声を掛け、言葉に耳を傾けましょう。

取組事例

- 「九九暗唱チャレンジ」、「週末算数オリンピック」、「マラソンカード」、「縄跳び検定」など、様々な場面で児童の努力や挑戦しようとする意欲を認め、主体的に取り組む態度を育てています。
- 休み時間にも全ての教職員が意識して生徒に声を掛けることに取り組んだことで、生徒にとっても気軽に話せる環境になり、授業でも主体的に取り組む姿が見られるようになってきました。

最後まで確実に終える授業を継続しましょう

1単位時間を計画どおりに終わらせることは、授業の基本です。

- 「ねらい」の提示と「振り返り」を毎時間継続して行うことで、子供たちが1単位時間の「ねらい」と「まとめ」を一体として理解できるようにしましょう。
- 指導内容のまとまりによって、2単位時間でねらいを達成する授業もあります。指導計画をきちんと立て、1時間目、2時間目それぞれのねらいとまとめを明確にし、子供たちが2時間で最終的なねらいを達成できたと実感できるようにしましょう。
- 子供たちが自分で考えたり、まとめたりすることができるように、時間と手間を掛けてノートの使い方を指導する必要があります。全教科で繰り返し指導しましょう。
- 「1時間目の授業が延びてしまったため2時間扱いになってしまった・・・」とならないように教科部会で指導計画を検討し、作成しましょう。

取組事例

〈小学校の取組〉

- 単元計画を工夫し、授業の「振り返り」には毎時間必ず適用問題を入れることで着率がアップしてきました。
- ノートの使い方を統一して指導したことで、「振り返り」に役立つ見やすいノートを作る児童が増えてきました。

〈中学校の取組〉

- 教科部会で授業の流れ、自己評価の方法などを検討し、学期ごとにその見直しを行うことで、教科の先生方全員の力が高まってきました。

〈小・中学校の取組〉

- 校内研究会で全国学力調査の問題を全員で解き、学習指導要領の内容と照らし合わせることで、重点を置いて指導する内容が明確になりました。
- 学習指導要領の内容を教科部会で確認したことで、授業のねらい、留意点、指導内容の系統性を明確にすることができた。

9年間の継続を図りましょう

小学校6年間、中学校3年間の9年間において継続し実践することが大切です。

- 小学校1年生から6年生まで、中学校は1年生から3年生まで同じ約束事を実践すること、発達の段階に応じ学年によって変えていくことを学校として明確にしておきましょう。
- 発達の段階に応じた「5つの提言」の実践により、子供たちにとって切れ目のないものになるようにしましょう。
- 小・中の連携を図り、9年間の継続した実践となるようにしましょう。

取組事例

〈小・中学校の取組〉

- 小・中学校9年間を見通して、中学校区で共通に実践する学習ルールを決め、各教室に掲示するなどした結果、小学校から中学校への学習の移行がスムーズになってきました。
- 小・中学校の授業を互いに見合う機会を設けた結果、指導内容や指導方法など、系統性を意識した指導を大事にするようになってきました。
- 小・中学校9年間の系統を分析し、身に付けさせたい力を示した「単元構想表」を各教科で作成し、実践したことで、既習事項の確認や、活用を図る授業を展開しやすくなりました。

自校化

児童生徒の実態、学校の実情は、それぞれの学校で異なります。全ての学校で同じように取り組めることもあります。自分たちの学校ならではの取組を検討し、自校化を図ることが大切です。

自校のよさと課題を踏まえた自校化を図りましょう。

自分たちの学校のよさと課題を先生方で話し合い、共通理解を図り、共通に実践することが大切です。

- 「信頼関係がまだ十分とはいえない」、「児童生徒が授業に集中できていない」、「家庭学習の習慣が身に付いていない」等のそれぞれの学校の課題に対して、特に重点を置く提言を決めることも大切です。
- 「信頼関係がまだ十分とはいえない・・・」と同じ課題を抱えた学校でも、学校の持ち味や強み等の状況により、**提言1**に重点を置く学校、**提言3**に重点を置く学校等、違いが出ることもあります。
- 重点を置く提言について、保護者に説明し、理解と協力を得ることも大切です。特に**提言5**「家庭学習の時間を確保すること」の実践には必要となります。
- 各学校の課題を踏まえて実践したことに対する評価が大切です。PDCAサイクルを確立していくことが提言の充実につながります。

取組事例

〈小学校の取組〉

- 今年度の努力事項として、「脱ワークシート」を掲げ、全教員で実践に努めることで、ノートの活用が一層図られてきました。

〈小・中学校の取組〉

- 家庭学習や宿題について校内で共通理解を図り、保護者と連携して授業と家庭学習のサイクルの確立に努めたことで、自主的な学習態度が育ってきました。

すぐに役立つ

全ての教室で取り組む学力定着

算数・数学 ステップ・アップ

5

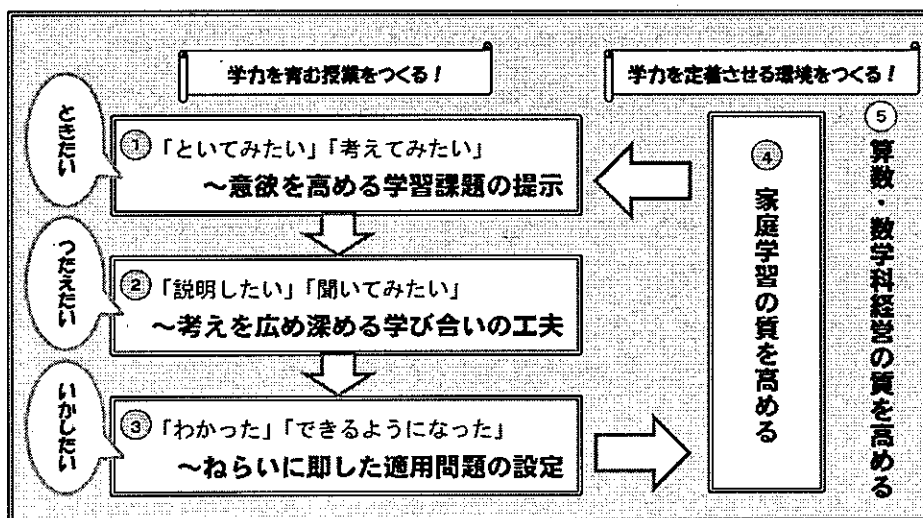
ファイブ

事例集

算数・数学の確かな学力を定着させるためには、児童生徒の実態を踏まえ、教員間で共有した具体的な手立てを、全ての教室で着実に実践することが大切です。宮城県学力向上対策協議会では、「学力向上に向けた5つの提言」の趣旨を踏まえ、特に算数・数学に焦点化した学力向上対策「算数・数学ステップ・アップ5」を策定し、実践化・自校化を働き掛けています。この資料は、各学校の実践の参考となるよう、先導的に取り組んでいる学校の事例を取りまとめたものです。

ぜひ、校種や教科にかかわらず、全ての先生方の授業改善に御活用願います。

<学力向上対策>



web フラスα

この事例集は「授業改善の入口」です。
ホームページには他の実践例や関連資料
もありますので参考にしてください。

詳しくは

宮城県 義務教育課

検索

平成28年7月

宮城県教育委員会

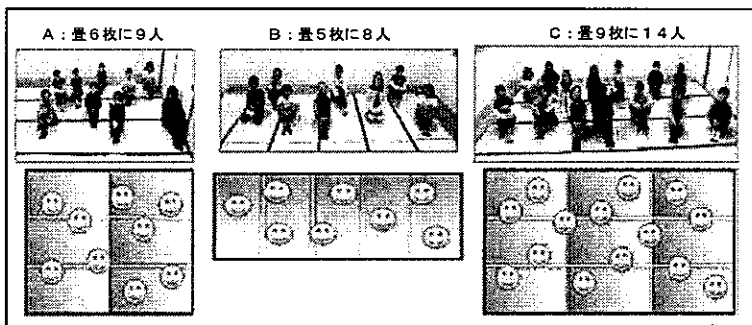
1 「といてみたい」「考えてみたい」～意欲を高める学習課題の提示

【テーマ】実際に混み具合を体験し、意欲を引き出した取組（小学校）

単位量当たりの大きさは、児童にとってなかなか理解しづらいと言われている。そこで本事例では、畳の数が異なる部屋に座る体験を通して、“混み具合”を実感として捉えさせ、単元全体への意欲を高めるよう問題場面の提示を工夫した。

【実践の概要】 第5学年「単位量あたりの大きさ」（本時7／13）

＜提示した問題場面＞ 修学旅行の部屋割りから



Point
実際に体験させることで、提示された課題が実感を持った「考えてみたい」ものとなります。

Point
条件がそろわない状況を整理して提示することで、問題解決の方向が明確になります。

○本時の課題
たたみの枚数も人数も違う3つの部屋について、混んでいる順番を調べよう。

【テーマ】ICTを活用し日常の生活場면을捉えさせる問題提示の工夫（小学校）

日常生活の中では、目的により関数の考え方を活用して判断することが必要とされる場面がある。本時では、遊園地の乗り物券を買う場면을想定して学習を進めた。
問題を提示する前に、遊園地の様子を映し出し、児童を問題場面の中に引き込んだ。
このことにより、「乗り物に乗る回数」と「料金」の関係について、児童に問いを出させ、その反応を生かして課題を設定することで、問題解決への意欲を高めた。

Point
問題場面に全員を引き込んだことで、「といてみたい」という意欲が高まり、問題解決的な学習活動が始まります。

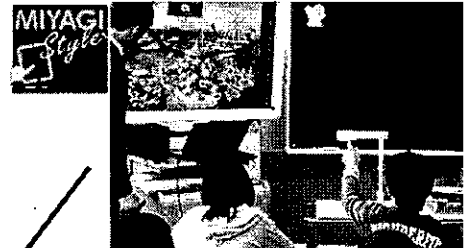
【実践の概要】 第4学年「変わり方しらべ」（本時5／6）

とく子さんは遊園地に遊びに来ました。

— チケット料金表 —	
・ 乗り物1回券	250円
・ 乗り放題券	2800円

たくさん乗り物に乗りたいな

どっちがとくかな



Point
電子黒板で遊園地での問題場면을提示
ICT機器の活用により、問題場면을視覚的に短時間で理解させることができます。

○本時の課題
乗り物に乗る回数と料金の関係を調べて、とく子さんにアドバイスしよう。

web フラッシュ

ミックスジュースをつくる場面設定で小数のたし算の必然性をもたせる取組や、輪投げゲームから円の性質を見付ける学習活動など、生活場面を取り入れることで知的好奇心を高め、解きたくなる工夫した事例が他にもみられます。既習事項との違いに着目させて問題解決へ見通しをもたせたり、児童の言葉を引き出して課題を焦点化したりするなど、「といてみたい」「考えてみたい」という問題解決への意欲を高めることが大切です。

【参考】
「MIYAGI Style」は、県教育委員会による教科指導におけるICT活用の提案です。

1 「といてみたい」「考えてみたい」～意欲を高める学習課題の提示

【テーマ】多様な考え方を引き出し、学び合う学習をすることができる課題の工夫（中学校）

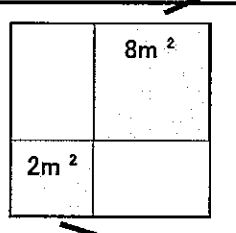
【課題のポイント】

既習事項を活用して、様々な解決方法を見出すことができる課題を設定した。

(例) 第3学年「根号を含む式の加減」(本時1/2)

学習課題：(平方根の加法について確認する学習活動)

右の図のような正方形の土地があります。この土地の中に図のように面積が 8 m^2 と 2 m^2 の正方形の花壇をつくりました。もとの正方形の土地の1辺の長さを求めましょう。



Point
日常生活からイメージしやすい花壇の面積を取り上げることで、解決への意欲を高めています。

Point
教科書の問題から数値を変えるなど、多様な考えが引き出せるような工夫も有効です。

I 面積を利用した考え方

花壇ではない長方形の面積は、 $\sqrt{8 \times 2} = \sqrt{16} = 4$ であるから、もとの正方形の面積は18となる。よって1辺の長さは、 $\sqrt{18} = 3\sqrt{2}$

II 図を利用した考え方

面積8の正方形を4等分すれば、正方形の面積と1辺の長さの関係から、もとの正方形の1辺の長さは $\sqrt{2}$ の3つ分とわかる。したがって、 $\sqrt{2 \times 3} = 3\sqrt{2}$

III 分配法則を利用した考え方

$$\sqrt{8 + \sqrt{2}} = 2\sqrt{2 + \sqrt{2}} = (2 + 1)\sqrt{2} = 3\sqrt{2}$$

面積は利用できないかな

図に補助線を入れてみるとどうかな

Point
既習事項を活用できないか促すことで、多様な解決方法に気付かせることができます。

【テーマ】生徒の「本時の振り返り」を、次時のめあてや課題につなげる取組（中学校）

【実践の概要】

○終末で行う「本時の振り返り」において、本時のめあてについて言語化（文章化）したものを次時の課題に生かすことに、全校で取り組んだ。

Point
本時の振り返りを次時に活用することで、次時の課題の必然性につながります。

本時のめあての達成度 (★) 1 2 3 4 5 (☆☆)

今日の学習で、こんな解き方もできるのではないだろうか。

ここまで分かったけれど、ここから先が分からない。

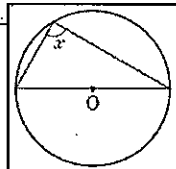
ここがなぜこうなるのか分からない

組 番 氏名

<毎時間配布しているミニプリント>

【次時の学習課題に生かした事例】

<p>① 証明問題で、授業で示さなかった方法に気づき、「この方法でもよいのか」と記入してきた。</p>	<p>② 三平方の定理の導入で、面積の関係(三平方の定理)に気付く生徒がおり、そのことを記入してきた。</p>	<p>③ 円周角の定理を学習した後、自主的に練習問題に取り組む中で、次の問題ができなかったという内容が書かれていた。</p>
<p>○ 「この前の時間の証明を、このように考えた人がいるが、この方法はどうだろうか。」と全体へ投げ掛けすることで、別な考え方に気付かせ、前時の内容の理解深化に役立った。</p>	<p>○ 「前の時間に、この関係に気付いた人がいます。たまたまかな、それともいつでもいえるかな。」と投げ掛け、文字を用いた証明の必要性に結び付け、三平方の定理の証明につなげた。</p>	<p>○ 「この問題に取り組んで、困っている人がいるけど、どうかな。」と投げ掛け、個人やペアで考えさせた後、直径と円周角の定理の学習につなげた。</p>



Web 下ろし

デジタル教科書のシミュレーションや動画により視覚に訴えたり、実際の立体図形を操作したりするなど、進んで考えたいような工夫が他にもみられました。

中学生の発達の段階から、教科書以外の本で見つけた問題や古くからある和算などを導入段階に取り入れることも、数学の世界への関心を高めることにつながります。

【参考】



平成26年度検証改善委員会報告書の「確かな学力の入口」でも理論と実際を解説しています。

2

「説明したい」「聞いてみたい」～考えを広め深める学び合いの工夫

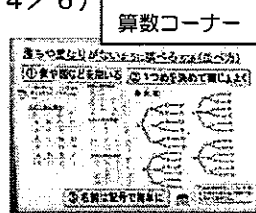
【テーマ】児童の考えをつなぎ、練り合いを深めた取組（小学校）

自分の考えを書いたり話したりして人に伝えることで、自分の考えたことが頭の中で整理され深まっていく。また、考えを伝え合うことを通して、集団の考えも深まっていく。本事例では、個人の考えや集団の考え方を深める工夫として、ペアやクラス全体での伝え合いの場を取り入れた。

【実践の概要】 第6学年「順序よく整理して調べよう」（本時4／6）

① 類推的思考を働かせて自力解決

- 前時の想起
- 既習事項の活用（算数コーナー）



Point

自力解決に必要な情報を準備し、活動の状況に合わせて活用させることが大切です。

② ペア学習で伝え合い

- 自分の考えのよさの確認
- 友達よりよい考えの学び



Point

ペア学習の目的を事前に確認して活動を始めましょう。

③ クラス全体での伝え合い

- 友達のよい考えを自分のものに
- 共通点、相違点、着想の共有化を
※ペアで納得しない児童もここで納得

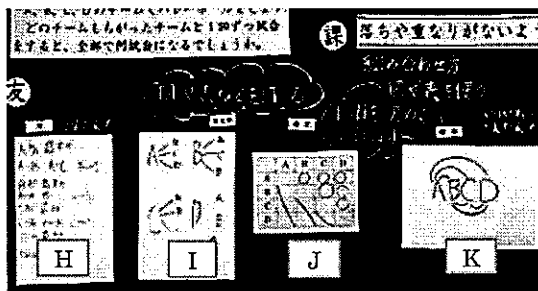
C 私は樹形図を書いたが、K君の考えが線の数で決まるので簡単だ。
C I君と同じ樹形図で求めたが、K君の考えは、ABCDを線で結ぶだけだったので簡単だ。
C K君の考えは、重なりを消さなくていいから分かりやすい。
C 私は表を使って求めたけど、Jさんは表を使って分かりやすく求めていたのでよいと思う。

【本時の振り返り】から

- C 友達の意見を聞いて分かるようになったのでよかった。
- C 図を使うと分かりやすく求められると思いました。
- C 最初あまり分からなかったけど、みんなの考えを聞いてどうやればいいのか分かったからよかった。

【次時の課題】

明日の5チーム対抗親子バレーボール大会の、試合の計画を立てよう。



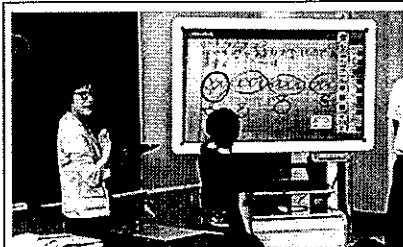
Point

聴き手に分かるよう、根拠を添えて話す習慣を付けましょう。

【テーマ】児童のノートをICTにより共有することで考えを広げる取組（小学校）

課題解決するための思考の場としてノートを活用している。自力解決で自分の考えをノートに書くことで整理し、思考の跡が残るようにした。また、考え方に沿った意図的な順序でICT機器を活用して児童のノートを提示し、考えを全体で共有できるようにした。

【実践の概要】



電子黒板に映したノートで考えを説明する児童

考えを話し合う場面では数名の児童のノートを電子黒板に映し、比較したり、全体で共有したりする活動を取り入れた。友達のノートを見ることで、自分と同じ考えや違いに気付かせることができた。

Point

ICTにより、ノートをそのまま見せることができるため、自分の思考の流れを説明したり、友達の思考をたどって考えを広げたりする活動が簡単に実現できます。

Point

対話的な学びを実現するためにも、先生だけでなく意図的にICTを使わせましょう。

web 5.5.2 a

図や式を画用紙にまとめて説明させたり、ノートに書いたことをタブレット端末で撮影し、集団解決の場面で大型モニターに映して説明させたりするなど、効果的に考えを伝えさせるための工夫をしている実践例が多く見られます。学び合いの場面では話し合いの目的を児童生徒と共有し、発言を引き出す手立てを講じながら解決に向かうことが大切です。

2

「説明したい」「聞いてみたい」～考えを広め深める学び合いの工夫

【テーマ】主体的な学習活動を促す学習課題を設定し、学習過程に学び合いを取り入れた取組（中学校）

【実践の概要】 第2学年「平行と合同」（導入段階）

【めあて】 多角形の角の和の求め方をいろいろな方法で考えてみよう。

とらえる

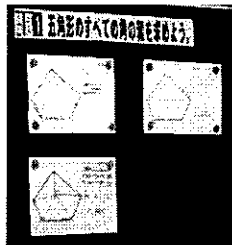
- ・本時で使う既習事項の確認
三角形の角の和は 180°
四角形の角の和は 360°
- ・目標の確認

考える

- ・【問題①】を考える
五角形のすべての角の和の求め方を考えよう

<多様な考えに気付く>

- (1) 三角形に分ける
- (2) 三角形と四角形に分ける
- (3) 図形内部に点を取る
- (4) 辺上に点を取る
- (5) その他



- ・考えを活用し、六角形、七角形の角の和を求める

深め・広げる

- ・【問題②】を考える
個 → 班（4人） → 全体

まとめる

- ・学び合いで学習したことを確認する
- ・次時への見通しをもたせ、つなげる

Point

基本的な考えを応用し、少し手応えのある問題を設定しています。友達の考え方が気付きにつながり、話し合いの中で解決できます。

- ・【問題②】を考える

三十二角形のすべての角の和を求めよう

描かなくてもできるかも

頂点をつなぐと…

いくつ三角形ができるかな

図が描けないなあ

三角形は 180°
四角形は 360°
五角形は…

五角形から三角形が3つできたよ

規則性がありそうだ

三角形の個数さえ分かれば

※単元の導入段階のため「内角」という用語は使用せず。

Point

学び合いの場面では、必ず自力解決を設定し、一人一人を課題に向き合わせます。個人で解決に至らなくても、集団解決で全員がゴールまで行けることを目指しましょう。

【参考】



平成27年度検証改善委員会報告書の「確かな学力を育む学び合い」でも理論と実際を解説しています。



電子黒板アプリ「miyagi Touch」とタブレット端末の組合せで、学び合いを活性化してみましょう。

web フォースα

学び合いの目的を校内で確認し、小学校までの学習の上に立って、生徒自身が主体的な学び合いになるようにしましょう。多様な考えが出るような課題設定が、授業を活性化します。

中学生という発達段階から、学び合いにより新しい視点を得たり、合理的・論理的な思考を身に付けたりすることのよさを感じさせるとともに、この後の生活や他教科等の学習場面でも生かせるよう、指導者が見通しをもって指導することも大切です。

3 「わかった」「できるようになった」～ねらいに即した適用問題の設定

【テーマ】適用問題の充実により理解を深める工夫（小学校）

【実践1】「ときたい」と思わせる問題場面を設定した適用問題の工夫

(第6学年・図を使って考える)
 この箱のお菓子を、Aさんは1人で15日、Bさんは10日で食べきります。AさんとBさんが2人で一緒に食べるとすると、この箱のお菓子は何日でなくなるのでしょうか。

(第6学年・速さ)
 野ウサギ（1分間に1300m）、ライオン（時速58km）、ウサインボルト（100mを9秒58）を速い順に並べよう。

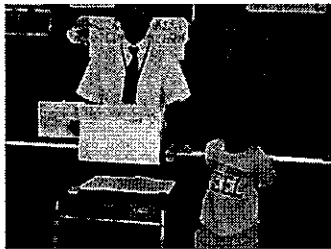
(第6学年・分数のかけ算)
 1dLで $\frac{1}{2}$ ㎡の壁をぬれるペンキがあります。でも、このペンキをこぼしてしまい、 $\frac{3}{4}$ dLになりました。これでぬれる壁の面積を求めましょう。

Point
 単に数字を入れ替えるのではなく、本時に学習した内容を活用する問題を用意しましょう。

Point
 学習した内容の理解を確かにするには、問題をつくらせることも効果があります。

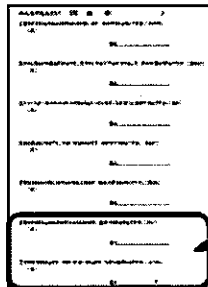
【実践2】自作の問題づくりで理解を深めた取組

適用問題に取り組んだ後に、自作問題に取り組ませている。自作問題は、ICTを活用してテレビに映したり、読み上げたり、拡大版を書かせたりして紹介した。



←自作問題を学級全体に紹介します。

自作問題をまとめてプリントにし、まとめに活用します。→



⑥重さが800gの小麦粉が4ふくらあります。全部で何kg何gですか。
 (式) _____
 答え _____

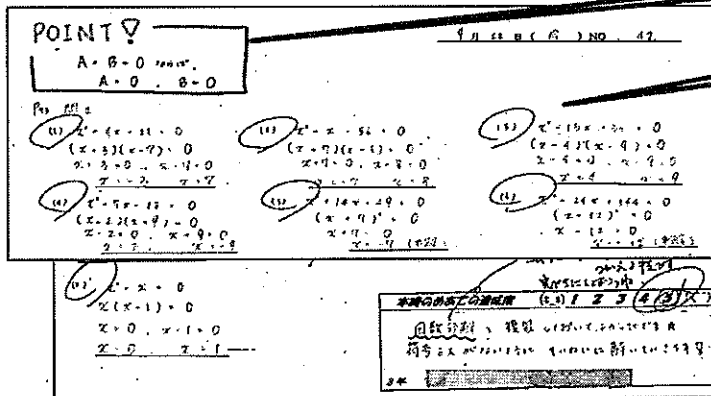
⑦犬の重さは5kgです。大きい犬は10kgです。ちがいは何kgですか。
 (式) _____
 答え _____

【テーマ】「振り返る活動」を設定し、学習のめあてを達成できたことを実感させる取組（中学校）

ノート等に振り返りコーナーを設定するなど、「振り返る活動」を意図的に設定し、本時のめあてに照らして学習した内容を振り返らせ、めあての達成が実感できるよう取り組んでいる。

★本校の「振り返る活動」の流れ★

- ①本時のポイントを自分なりにまとめる。
- ②適用問題として教科書の問いを行う。
- ③適用問題の答え合わせを行い、本時のめあての達成度の自己評価とことばによる振り返りを行う。

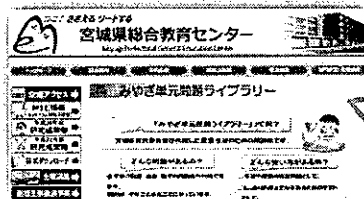


Point
 ねらいに立ち返って振り返りを行う形を、他の教科においても継続して取り組むことが大切です。

web 下アスQ

本時の学習内容を活用することで理解を深めたり、個の振り返りをまとめに生かしたりする取組が見られました。まとめや適用問題に取り組むことが、本時の学習内容の確実な定着につながります。一人一人に目を向け、「わかった」という実感をもたせましょう。また、習熟を図る場面を位置付けるなど、「学習の量の確保」についても意識して取り組みましょう。

【参考】



適用問題として、「みやぎ単元問題ライブラリー」も、ぜひ活用してみましょう。

4 家庭学習の質を高める

【テーマ】「振り返りカード」を活用し、児童の主体性と意欲を引き出す取組（小学校）

1週間単位の「振り返りカード」を導入し、週末に保護者や担任から励ましのコメントをもらうことで、子供たちが生き生きと主体的に家庭学習に取り組むとともに、家庭学習に対する保護者の関心も高まっている。

1週間の学習の計画を立てて、計画的に学習する習慣をつけよう。

①週別に1週間の学習の振り返りシートを作成し、計画を立てます。
②毎日、その日の学習の振り返りシートを先生に提出します。
③週別に計画表を家の人に見せて、家の人から一言書いてもらいます。（必ず）
④よくできた ○ でできた △ あまりできなかった × でできなかった

日	科目	振り返り	達成	評価	実行
7月	漢字(大卒生のむすか)	◎	◎	65	◎
8日	算数(拡大図の復習)	◎	△	50	◎
9日	理科(このはたき)	◎	○	60	◎
10日	算数(等しい性質の復習)	◎	×	45	◎
11日	理科(電と私たちの暮らしの復習)	◎	○	65	◎
12日	漢字(五年生の復習)	◎	○	55	◎
13日	算数(室合の復習)	◎	◎	60	◎

自分の反省・次にかんばることなど

家の人から

先生から

14日	社会 予習 [韓国について調べる]	◎	70	◎
-----	----------------------	---	----	---

自分の反省・次にかんばることなど

家の人から

先生から

水・木・金・土の学習時間が平日の目標時間の60分より下回っていたので、来週からは、60分以上できるように心がける。予習や、新しい漢字は、熟読して、時間をやりくりして、目標の60分以上をクリア出来るようにがんばろう！

習い事で自主勉強の時間が短くなってしまいましたが、時間のやりくりを工夫して、目標の60分以上をクリア出来るようにがんばろう！

毎日は、夕方に自発的に長時間勉強に取り組みました。土曜日は、友達と二人でセンターまで行きました。地図を見ながら、勉強も頑張りました。来週もがんばります！

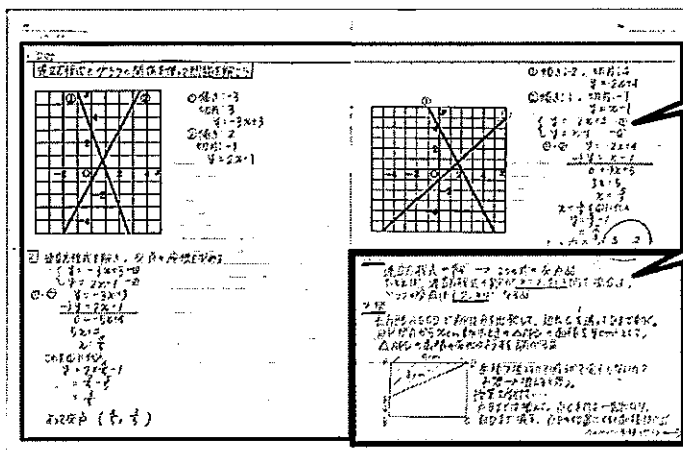
毎日は、夕方に自発的に長時間勉強に取り組みました。土曜日は、友達と二人でセンターまで行きました。地図を見ながら、勉強も頑張りました。来週もがんばります！

5教科ともしっかりと勉強に取り組むことができました。確実に成長していることが、うれしい限りです。毎日は、がんばったのは、目標をもっと取り組むためです。

Point
継続した振り返りと保護者や担任からの励ましが学習習慣を確かなものにします。

【テーマ】授業ノートと一体化した予習・復習の取組（中学校）

1時間の授業をノート見開き1ページとし、その余白スペースを予習・復習に充てることに全校で取り組んでいる。一体化したノート作りにより授業と家庭学習を意図的に関連付けながら、授業と家庭学習の質の向上を図った。



1時間の授業の板書をノート見開き1ページでまとめさせる。

ノートの余白スペースに、家庭学習で取り組んだ予習・復習の内容を記録させる。

Point
授業と家庭学習の意図的な関連付けは、学習の連続性・継続性を生み、児童生徒の学習習慣の定着につながります。

web 下ネタ

保護者の理解を得るため、年度始めの学年懇談で家庭学習について提案したり、オリジナル下敷きを作成して普段から意識できるようにしたりすることで継続的に取り組むための工夫が見られました。また、授業で使うノートの一部に予習・復習スペースを設けたり、課題学習ノートを用意して復習と自主学習を一体で取り組めるようにしたりするなど、ノートづくりの工夫も見られます。授業で学習したことが家庭学習につながり、また授業で生かせるような仕組みづくりが大切です。

なお、真ん中で取り組めるよう保護者へ協力を働き掛けるとともに、家庭学習の約束事などを子どもたちと話し合いながら、これから先も使える学習の方法が身に付くように、発達の段階を踏まえた指導をしましょう。

【参考】

学習習慣の形成に向け、総合教育センターの専門研究も参考にしてみましょう。
○授業改善・学力向上研究グループ
「児童生徒の学力向上を目指す授業改善」

算数・数学科経営

ときたい
つたえたい
いかしたい

家庭学習の質

5 算数・数学科経営の質を高める

【テーマ】学力向上に向けた数学科部会の取組（中学校）

【取組の概要】

年度始めの数学科部会で、生徒の実態を踏まえた学力向上に向けた指導の重点化を図り、校内研究と連動させて授業改善を進めた。

学校全体としての
数学の授業改善・学力向上

Point
教科経営は「学校としての」という立場が大切です。生徒の実態など学校の実情を理解し合うところから始めましょう。

- 校内研究と連動させた授業研究の充実
- ・一緒に指導案の事前検討
 - ・時間を決めて必ず参観
 - ・教科部会でも事後検討会
 - ・1学年複数教員が担当を生かし先行授業の実施と事後検討

- 教科部会の定例化と風通しの良い運営
- ・計画的な設定、定刻開始
 - ・異なる経験年数が集まるよさ
 - ・若年層の成長と新しい視点の獲得

教科部会の充実



- 全員で取り組む苦手領域
- ・3学年を見通した教材研究
 - ・特に、関数、図形領域に重点化

- 学習規律・学習習慣の共通化
- ・授業の流れ、ノート指導、家庭学習とのサイクル形成
 - ＜数学科として全学年統一＞

Point
学力・学習状況調査の結果などを教科部会で読み合わせすることで、今後の指導の手立てについて方向性が見えてきます。

Point
学校規模により校内で部会ができない場合は、市町村単位や隣接校との情報交換を大事にしましょう。また、小中連携を進め、お互いに授業を見合うことで、算数と数学の間にギャップを生まないようにすることも大切です。

＜本校の生徒の実態＞

- ・明るく奉仕的活動にも積極的
- ・関数や図形の領域が弱い
- ・規範意識や自己有用感がやや低い
- ・家庭学習の時間が短い生徒も多い

web プラスα

「我が校ではこのように指導する」という、学校としての方針を明確にすることが教科経営の基盤です。まず、学年部会や教科部会を充実させ、学校の実情を踏まえた方針と重点、そして指導の系統性などを確認しましょう。その上で、学習ルールの徹底や教科コーナーの充実、きめ細かなノート指導など、全ての教室で学力向上に向けた具体的な取組を着実に進めることにより、学習内容はもちろん、学習方法が子どもに定着していきます。

改めて、授業づくりの基盤となる「学力向上に向けた5つの提言」を確認するとともに、学力向上対策の自校化・実践化を進めましょう。また、「算数・数学」にとどまることなく、小学校では算数以外の教科で、中学校では自分の教科でどのような工夫ができそうか、この「算数・数学ステップ・アップ5」事例集も参考にしながら創造的に授業改善を進めましょう。

＜みやぎの先生「授業の技」配信事業＞

宮城県内の先生方の授業動画を共有するWebサイトができました。

- 明日の授業づくりの参考に
- 校内研修の素材として
- 授業の技の継承の場として

詳しくは、事業要項を御覧ください。

【お問い合わせ先】

宮城県教育庁義務教育課
☎022-211-3643

宮城県教育委員会

技 授業の技

